

平成26年度桑員地域自主防災組織リーダー研修

**「大規模自然災害」立ち
向かおう 今こそ！**

**三重県防災対策部防災企画・地域支援課
防災技術指導員 加藤 清**

- 
- **三重県を襲う自然災害**
 - **自主防災の重要性**
 - **自主防災組織とは**
 - **自主防災組織の課題**
 - **県内の活動事例の紹介**

三重県を襲う自然災害

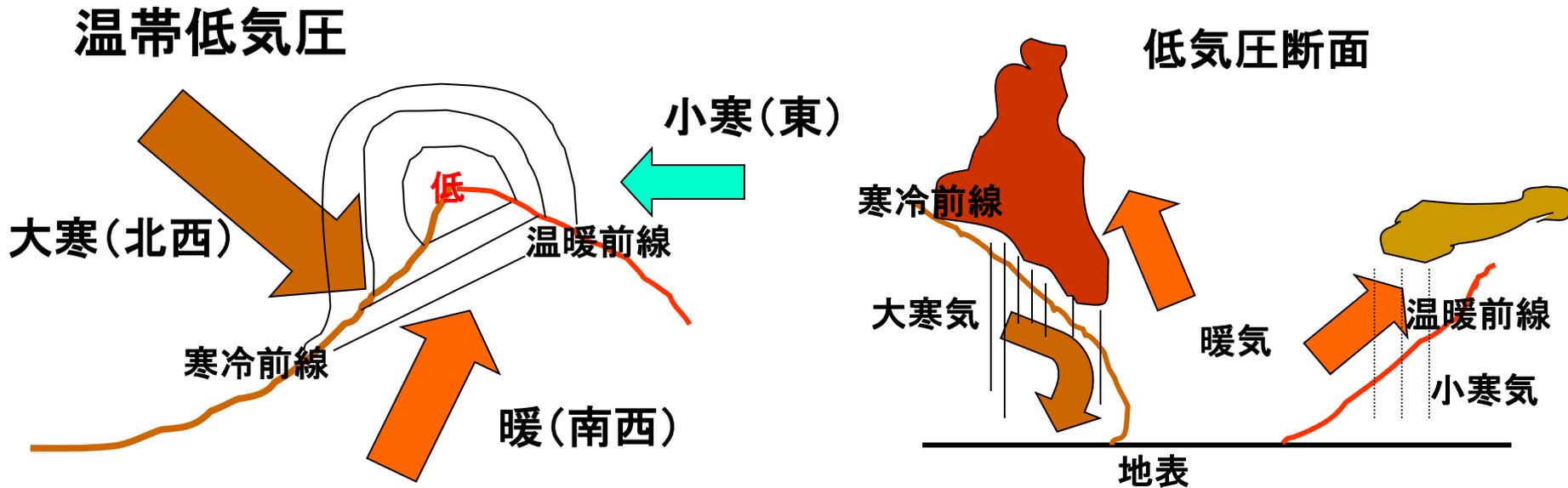
① 台風等による風水害

② 活断層による直下型地震

③ 南海トラフ巨大地震

低氣壓 · 台風

風の吹き方 (気圧 高 → 気圧 低)



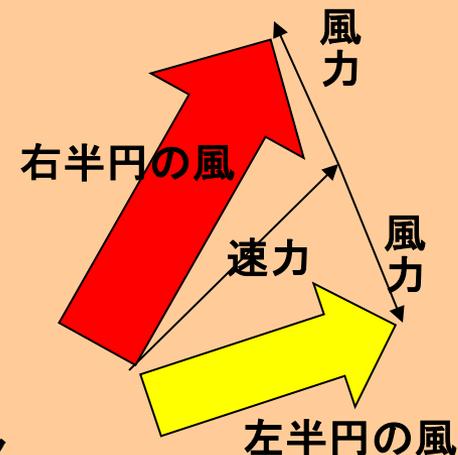
温带低気圧

北半球(日本)では西から東へ移動

前線通過で風向は変わる(特に寒冷前線では顕著)

台風風の風

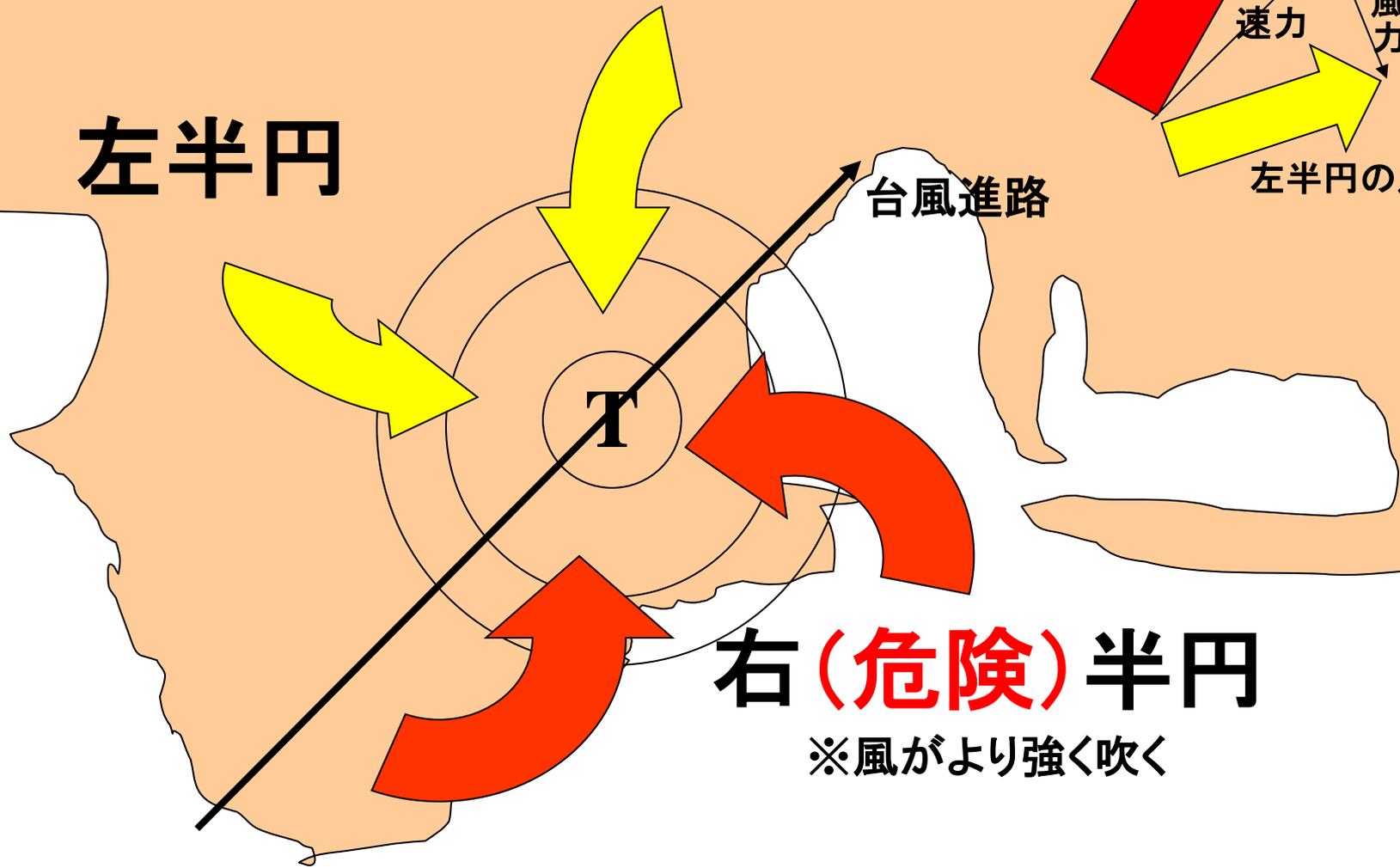
左半円



台風進路

右(危険)半円

※風がより強く吹く



平成16年台風21号及び秋雨前線による被害



津市内



旧海山町地内



旧宮川村小滝地内



旧宮川村久豆地内



伊勢市津村町地内

危険判定の注意要素

風はどちらから吹く？（海風は要注意）

- 1 低気圧・台風の風の吹き方を知る
- 2 天気予報から自分の町と低気圧・台風との時間ごとの相対位置を把握

風の強さは？

- 1 天気図から風の強さを推定
等圧線の間隔が狭いほど風は強い
- 2 気象情報を密に入手



菰野町田光川付近



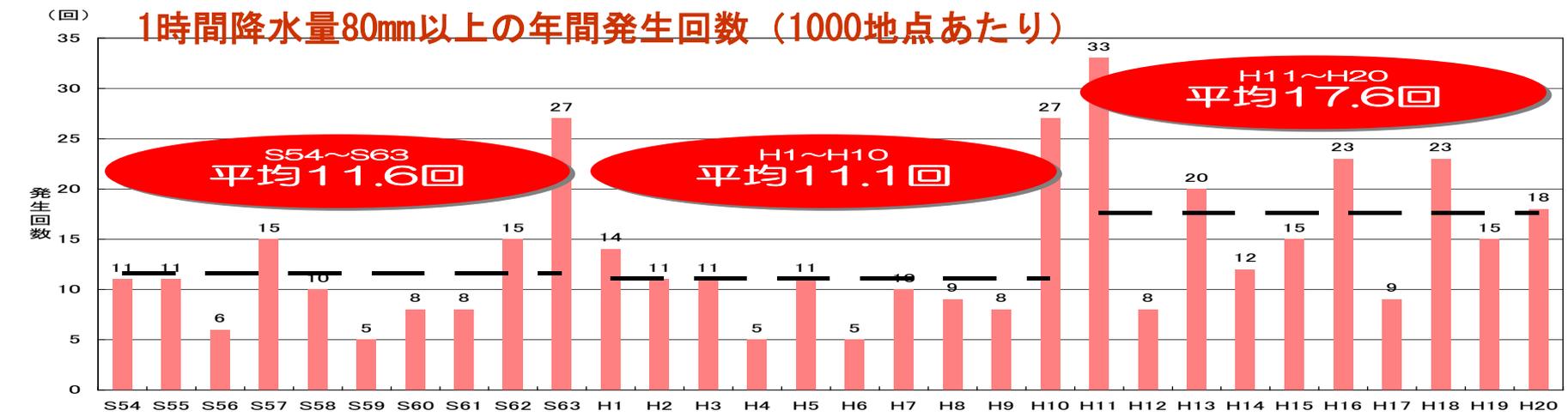
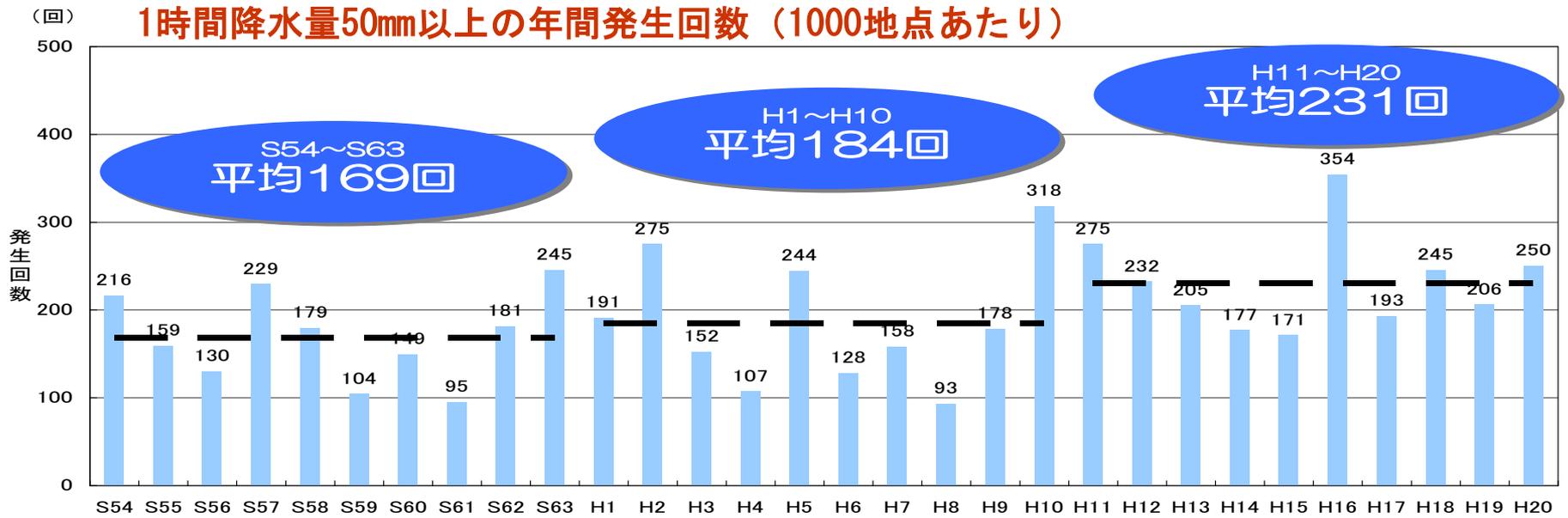
菰野町湯ノ山温泉付近



朝明キャンプ場付近の県道朝明溪谷線の被害



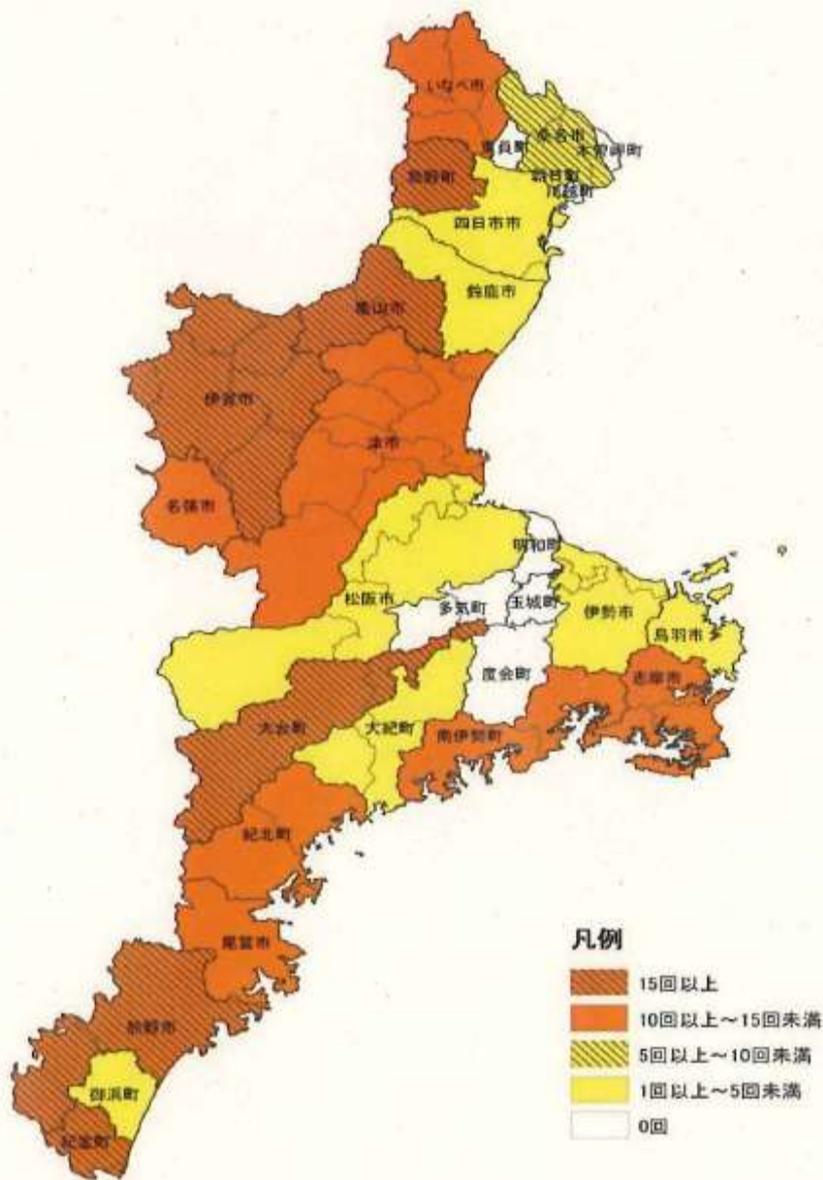
集中豪雨も増えている！



近年では、1時間雨量100mmを超えるような記録的かつ局地的な短時間大雨による災害も増加しており、そのような現象への対応も急務となっている。

【県内の土砂災害の発生状況】

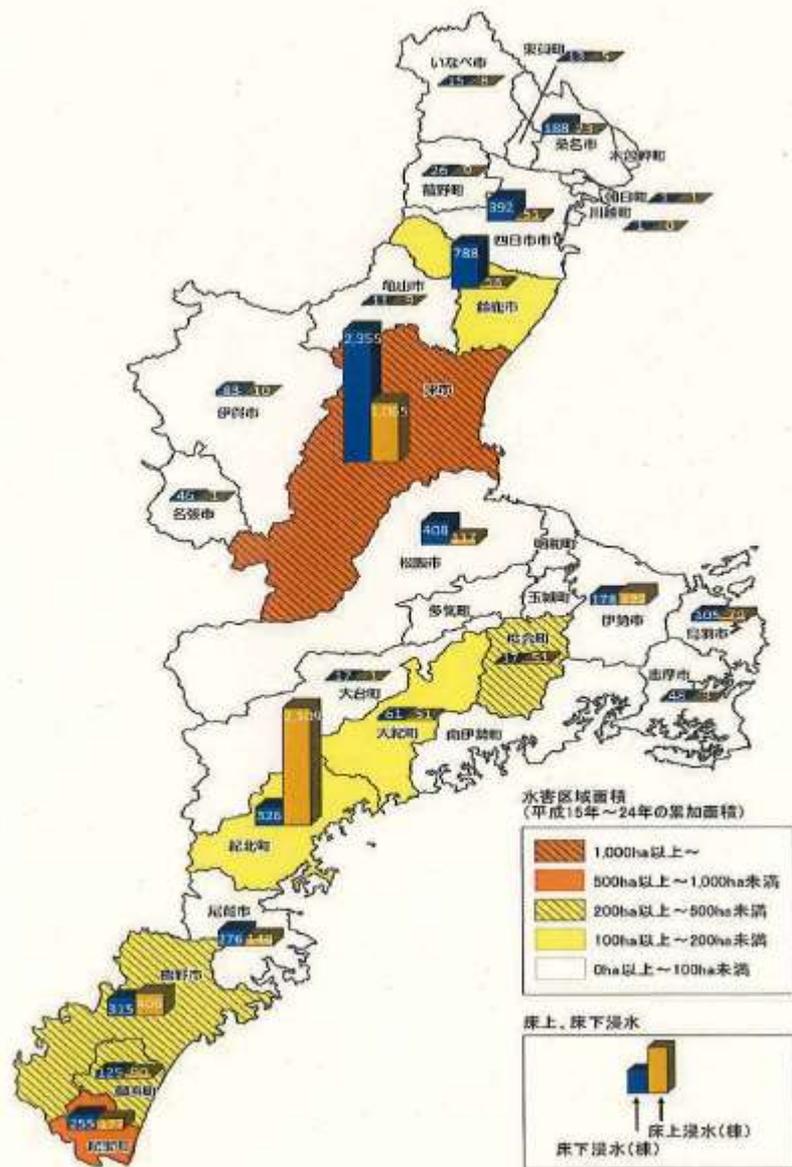
(平成16年～25年の発生状況)



※図中の細い実線は、旧69市町村(平成15年11月までの)の旧行政界を表す。
(三重県防災砂防課資料「市町別(年別)災害発生件数」を基に作成)

【県内の洪水被害の状況】

(平成15年～24年の被害状況)



(国土交通省「水害統計」等を基に作成)

平成23年・台風12号
紀宝町大里地区被害

相野谷川流域氾濫



警戒すべきこと

危険な前ぶれ(前兆現象)を察知！

- 川の水かさが急激に上昇する。
- 水が濁り、流木が流れてくる。
- がけから音がする。小石が落ちてくる。
- 斜面にひび割れや変形がある。
- がけや斜面から水が噴出している。
- がけからの水が濁っている。
- 山がミシミシと音を立てる。
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がっている。(鉄砲水の前兆)

避難時期を失しない

- 気象情報を正しく把握する
気象庁HP、中部整備局HP etc.
- 携行物品は普段から準備
- できるだけ明るいうちに
- 風が強くなる前に(台風時)
- 避難経路に注意
増水する危険箇所を避ける

避難に関する情報の種類

- 避難準備情報(人的被害発生可能性高い)
避難行動に時間がかかる人が避難行動を起こさなければならない段階
- 避難勧告(人的被害発生可能性明らかに高い)
通常の人が避難行動を起こさなければならない段階
- 避難指示(人的被害発生危険が非常に高い)
避難中の人には避難を完了させる
避難していない人は直ちに避難する



地震



頓宮断層

養老断層

木津川断層帯

鈴鹿東縁断層帯

伊賀市

亀山市

桑名断層

鈴鹿市

四日市断層

津市

布引山地東縁断層帯

伊勢湾断層

松阪市



図-3 利根川流域の地形図



図-4 二重層による地質調査では、現地調査によって地層の位置をできるだけ正確に調査した。
 (図は、利根川流域の地形図、1:50,000の地形図を基に作成)



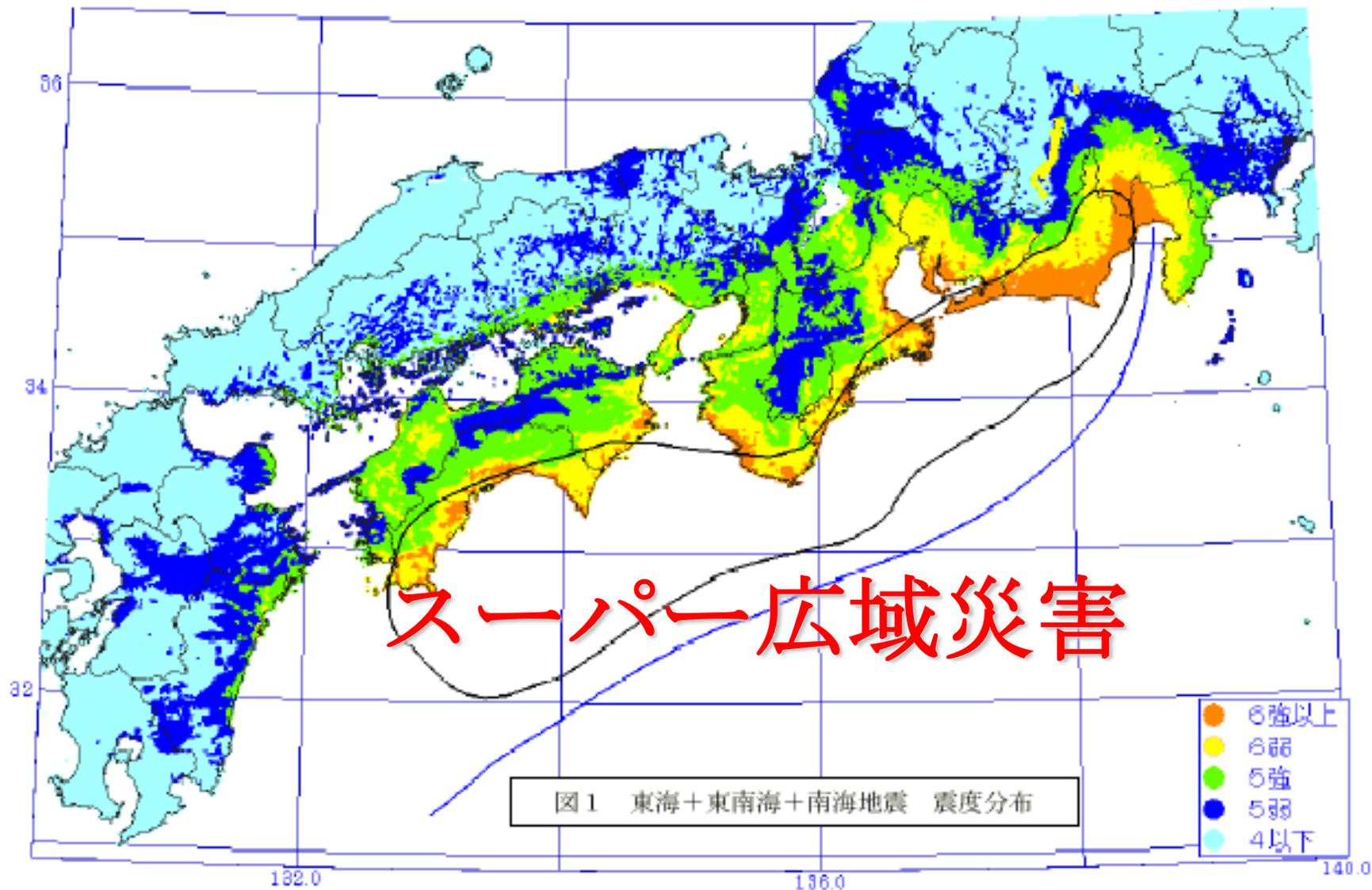
養老・桑名・四日市断層帯が動いたら

- 震度は、桑名地域で震度7の強い揺れ（桑名市は震度7）
- 建物被害は、揺れによる全壊・焼失棟数が四日市市で約55,000棟など北勢地域で建物被害が大きい。県全域で全壊・焼失棟数約114000棟（参考：桑名市約26,000棟）
- 人的被害は、冬の深夜の四日市市で死者約2,800名など北勢地域で人的被害が大きい。県全域で死者約6,000人、重傷者約9,600人（参考：桑名市約1,300人）

鈴鹿東縁断層帯が動いたら

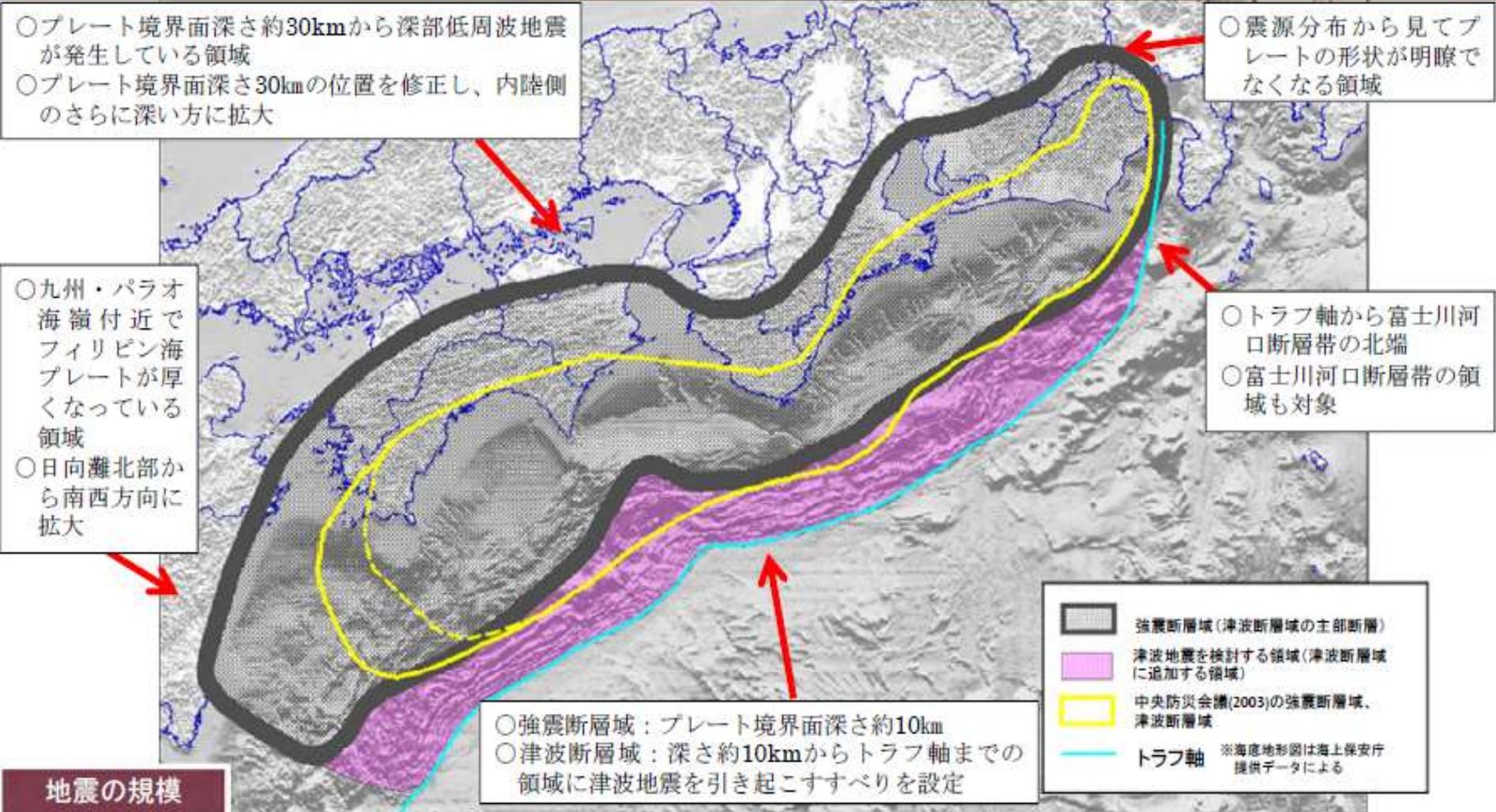
- 震度は、北勢地域で震度6強から震度7の強い揺れ(いなべ市は震度6弱)
- 建物被害は、揺れによる全壊棟数が菰野町で約550棟など北勢地域で建物被害が大きい。県全域で全壊・焼失棟数約7,800棟
- 人的被害は、冬の5時亀山市で死者約20名など北勢地域から中勢地域にかけて人的被害が大きい。、県全域で死者約110人、負傷者160人

南海トラフ巨大地震による強震動



南海トラフの巨大地震の想定震源断層域 (2012)

資料1-1



地震の規模

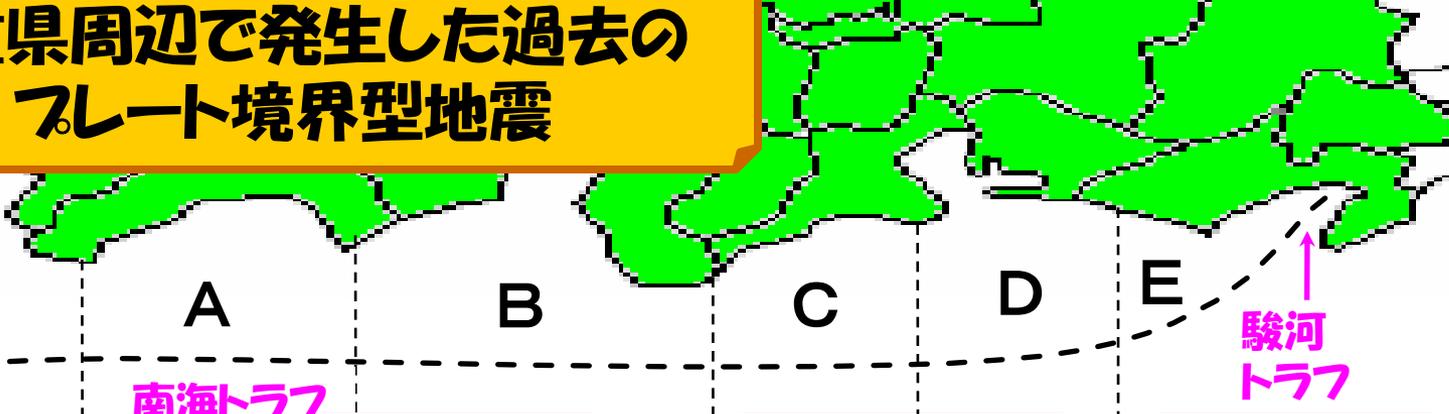
	南海トラフの巨大地震		参考			
	(津波断層モデル)	(強震断層モデル)	2011年 東北地方太平洋沖地震	2004年 スマトラ島沖地震	2010年 チリ中部地震	中央防災会議(2003) 強震断層域
面積	約14万km ²	約11万km ²	約10万km ² (約500km×約200km)	約18万km ² (約1200km×約150km)	約6万km ² (約400km×約140km)	約6.1万km ²
モーメント マグニチュード Mw	9.1	9.0	9.0 (気象庁)	9.1 (Ammon et al., 2005) [9.0 (理科年表)]	8.7 (Pulido et al., in press) [8.8 (理科年表)]	8.7

■ M9.0 (マグニチュード)

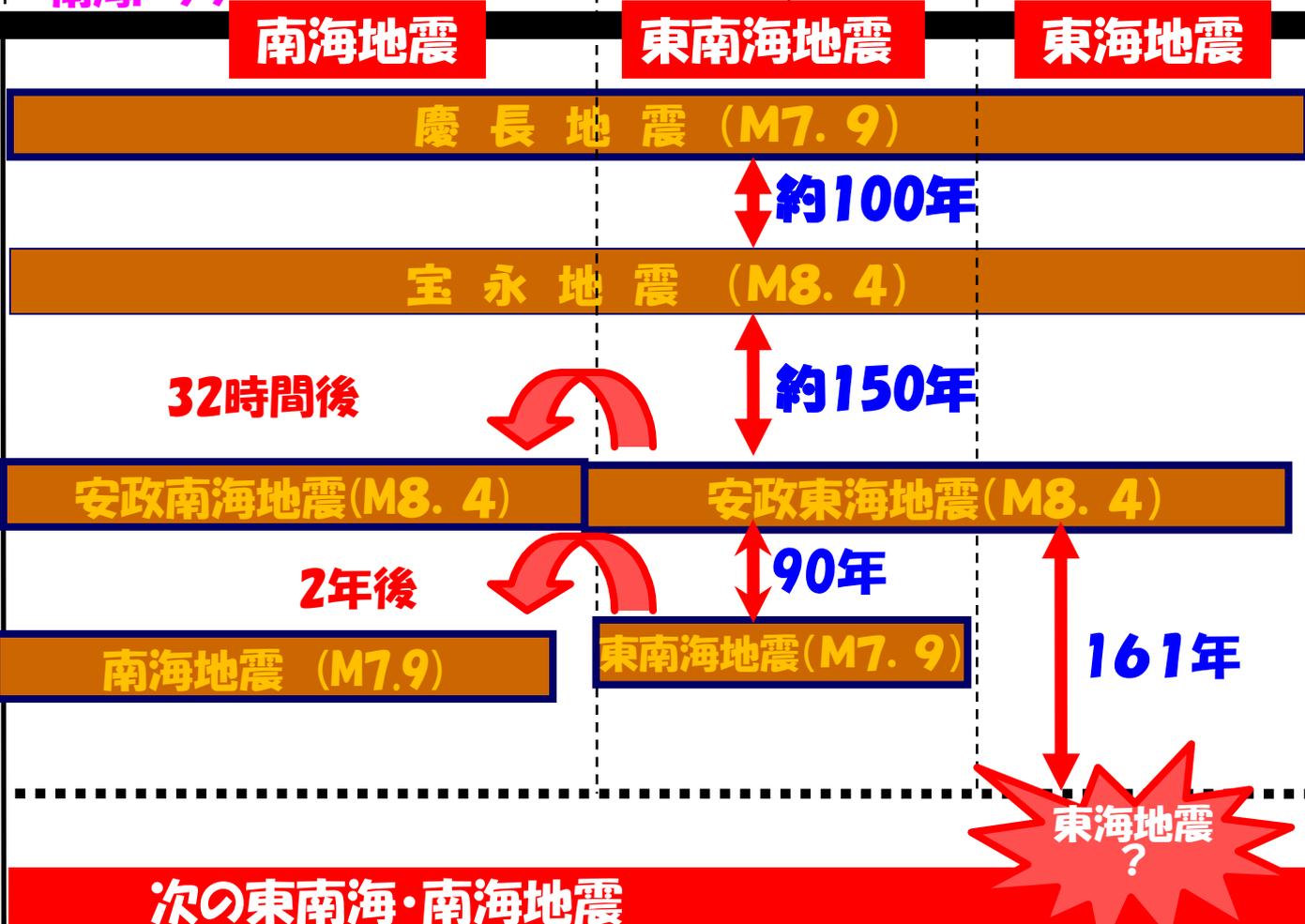
1900年以降世界で4番目に大きい地震

- | | | | | |
|---|-------|-----|------------|------|
| 1 | 1960年 | 5月 | チリ地震 | M9.5 |
| 2 | 1964年 | 3月 | アラスカ地震 | M9.2 |
| 3 | 2004年 | 12月 | スマトラ島沖地震 | M9.1 |
| 4 | 1952年 | 11月 | カムチャッカ半島地震 | M9.0 |
| 4 | 2011年 | 3月 | 東日本大震災 | M9.0 |

三重県周辺で発生した過去のプレート境界型地震



1605年
1707年
1854年
1944年
1946年
2015年

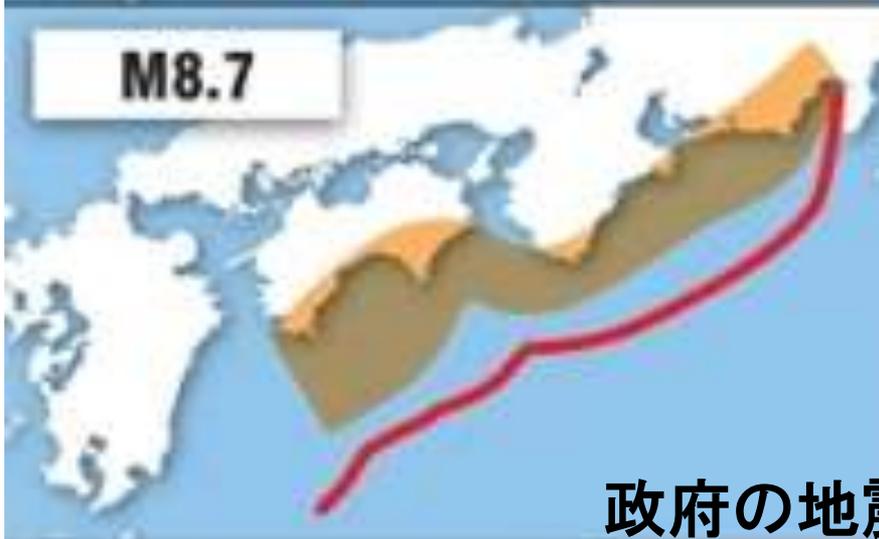


近い将来に発生が危惧される地震！

- 駿河湾から日向灘沖にかけて太平洋沿岸では、過去に巨大地震が繰り返し発生し、大きな被害をもたらしてきました。
- 三重県では、現在も含めて近い将来に「南海トラフ沿いで発生する大規模な地震」の発生が心配されています。

南海トラフ沿いで発生する大規模な地震！

M 8 級以上の主な震源域



政府の地震調査委員会の資料から（平成25

南海トラフでM8~9の地震が起きる確率

今後	10年以内	20%程度
	20年以内	50%程度
	30年以内	70%程度
	40年以内	80% 90%
	50年以内	90%程度以上

今回の見直しのポイント

南海トラフのどこで巨大地震が起きるかを特定せずに
今後M8~9の地震が起きる確率を出した点

南海トラフ巨大地震の被害想定

※データは昨年8月と今年3月の発表

【最大震度と死者数】



死者数



死者数
32.3万人

浸水面積
1015km²

避難者(1週間後)
950万人

断水人口
3440万人

全壊建物
238.6万棟

経済被害
220兆円

道路・鉄道被害
6万カ所

停電軒数
2710万軒

最悪の死者が出るとみられるのは！

- 冬の深夜で多くの人が寝静まっている
- 秒速8m/sの風が吹いている
- 東海地方に被害を及ぼすタイプの地震が発生する
などの条件が重なった場合

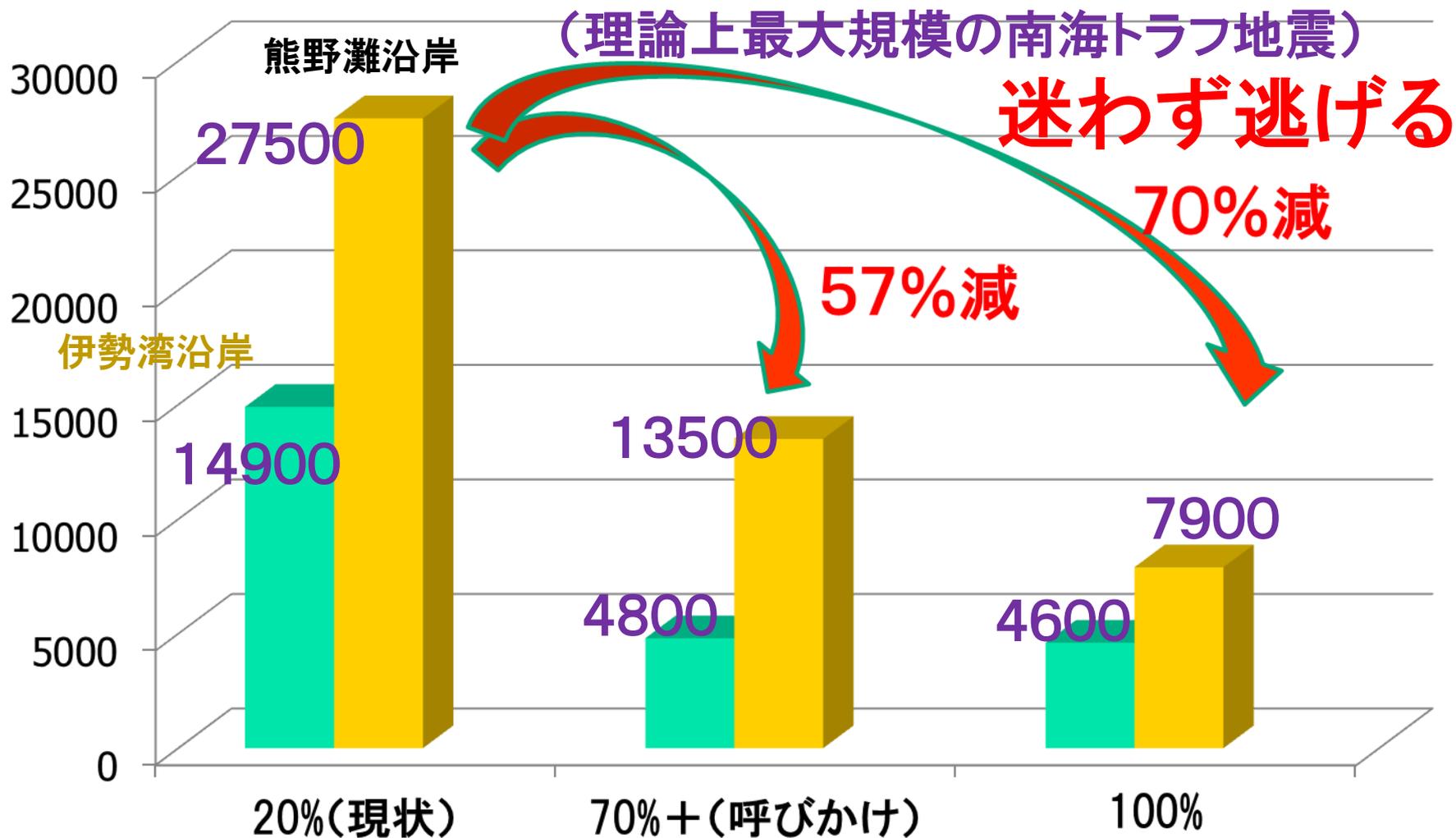
- 津波で 23万人
- 建物倒壊で 8万3千人
- 火災で 1万人が亡くなる

ただ、全員が地震後すぐに避難を開始したり、建物の耐震化率を100%にしたり、最大限の対策を講じれば犠牲者を**6万1千人**まで抑えられる

超広域被害への対応！

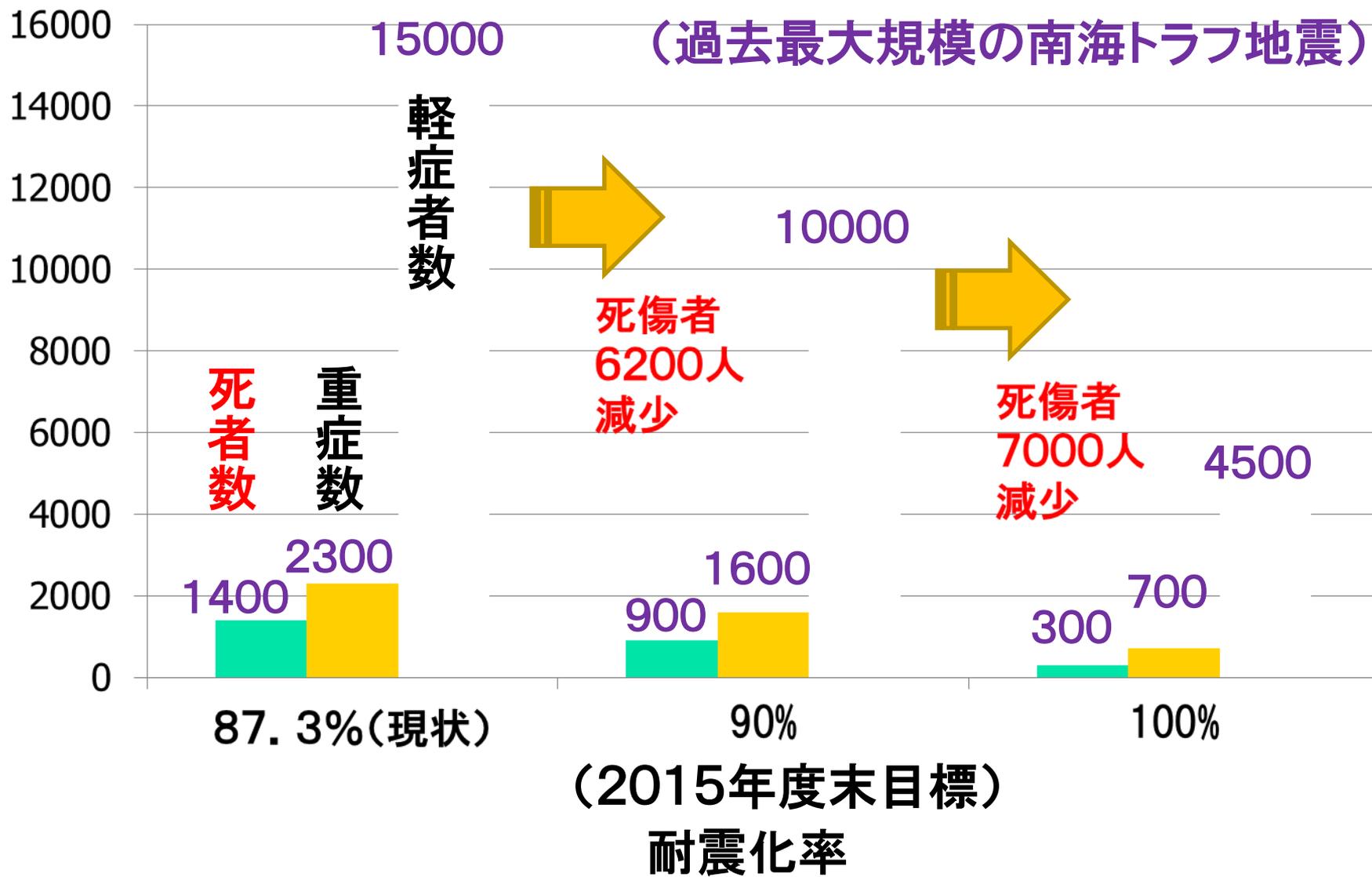
- ・ 南海トラフ巨大地震対策の最終報告の中で、避難所の受け入れの優先順位をきめるよう(提言)→避難所トリアージ
- ・ 従来は被災者を等しく救援の対象としていたが、**全国で避難者が950万人(一週間後)内、避難所へ500万人が駆け込むともなれば避難所も非常食も足りなくなるのは明らか**
- ・ 「全員を助けられない」ことは皆わかっていたながら、公式に表明できなかった
- ・ 今回、そこを敢えて踏み込んで、現実的な対応に踏み込んだ
- ・ **避難所は全ての避難者を助けてくれる場所ではない、自力で生きられる人は極力、公的避難所を利用せずに済ます努力が求められる**

「すぐ避難」犠牲者7割減少



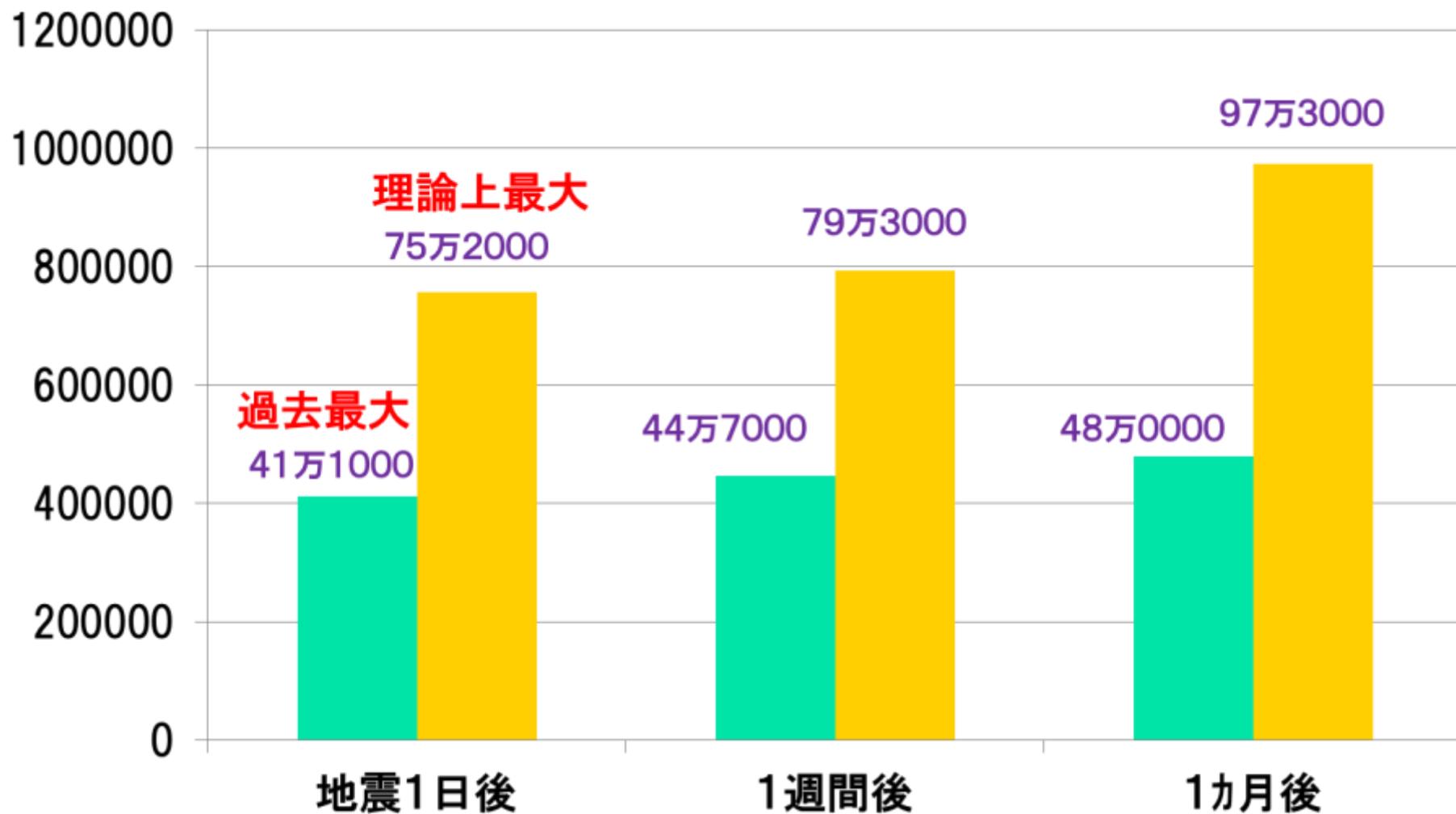
地震発生直後に避難した人の割合

「揺れ」

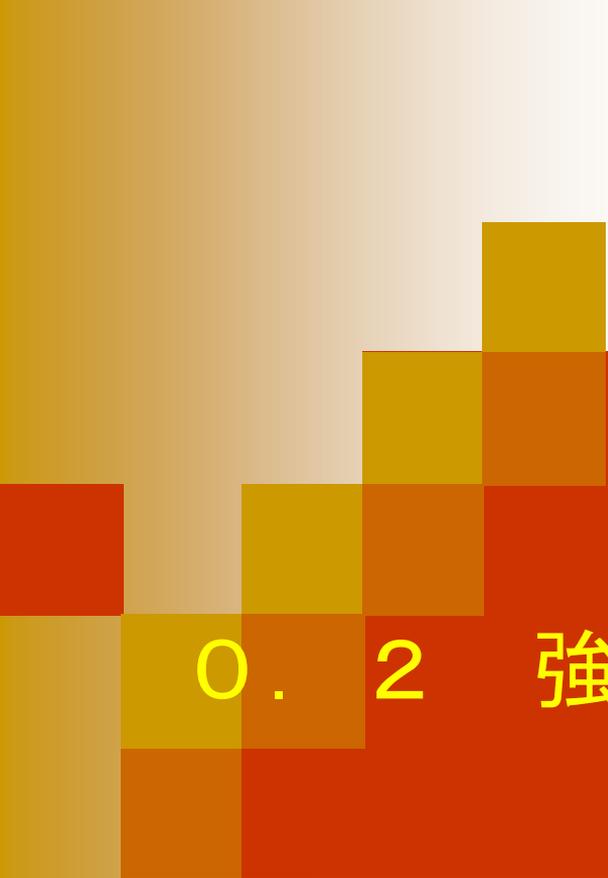


「避難者」の推移！

(過去最大・理論上最大南海トラフ地震)



在宅避難者等を含む



0. 2 強震動予測結果

今回の地震被害想定及び既存被害想定における各市町最大震度一覽表

今回想定した地震（5ケース）のいずれかにより、すべての市町で震度6強以上（最大震度）が想定されている。

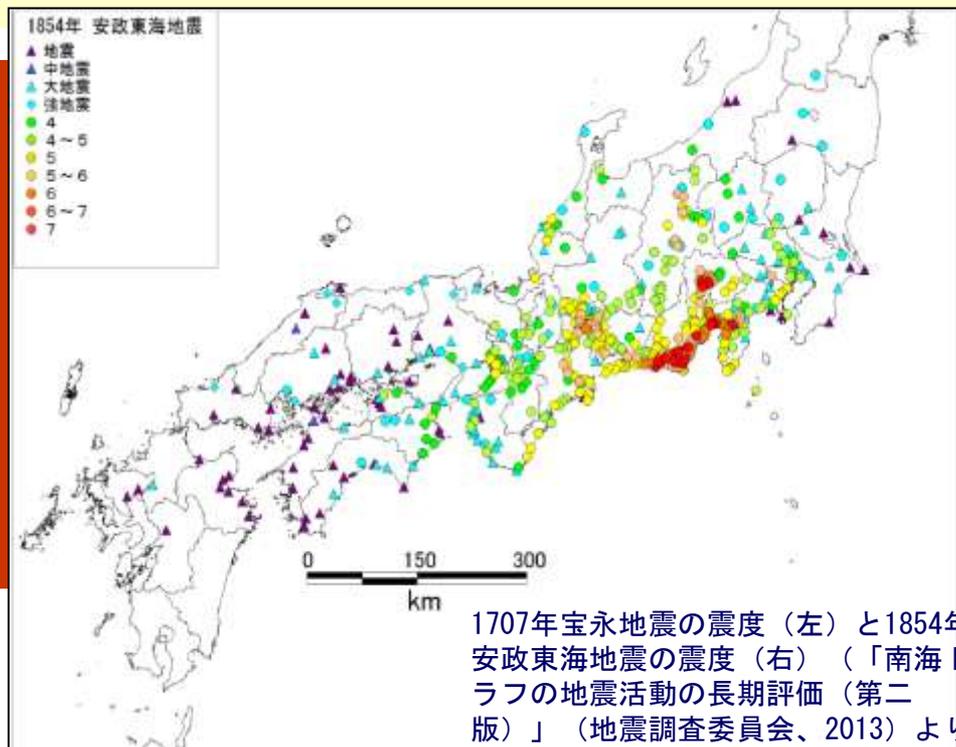
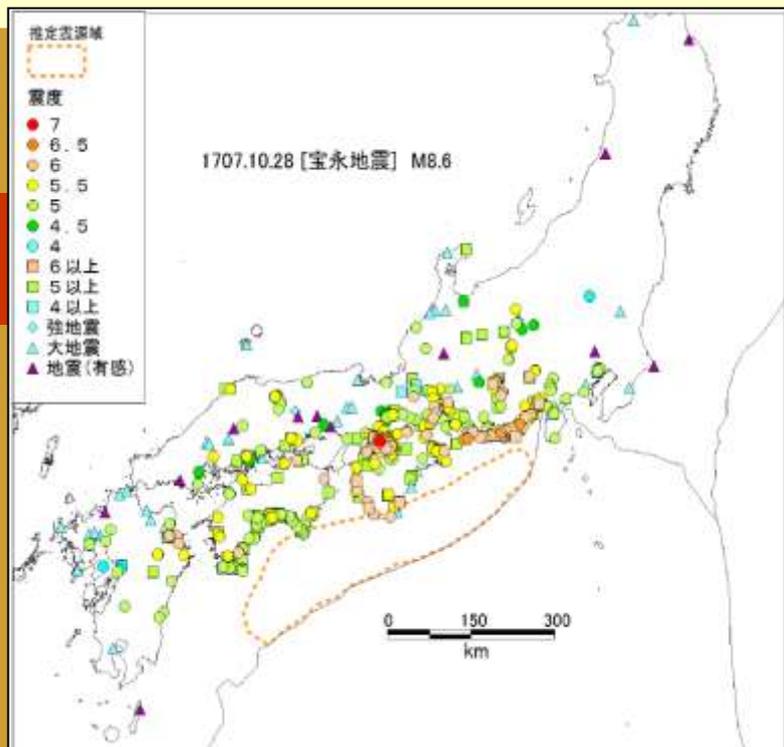
市町名	最大震度						三重県(2005) (東海・東南海・南海地震)
	内閣府(2012) (陸側ケース)	今回想定					
		南海トラフ (理論上最大)	南海トラフ (過去最大)	養老一桑名一 四日市断層帯	布引山地東縁 断層帯(東部)	頓宮断層	
桑名市	6強	7	6弱	7	6強	5強	6弱
いなべ市	6弱	6強	6弱	7	6弱	6弱	6弱
木曽岬町	6強	7	6弱	7	6強	5強	6弱
東員町	6強	6強	6弱	7	6弱	5強	6弱
四日市市	6強	7	6強	7	6強	6弱	6弱
菰野町	6強	6強	6弱	6強	6弱	5強	6弱
朝日町	6強	6強	6弱	7	6強	5強	6弱
川越町	6強	7	6弱	7	6強	6弱	6弱
鈴鹿市	7	7	6強	7	7	5強	6強
亀山市	6強	6強	6弱	6強	6強	6弱	6強
津市	7	7	6強	6強	7	6弱	6強
松阪市	7	7	6強	6弱	7	5強	6強
多気町	7	7	6強	5強	6強	5強	6強
明和町	7	7	6強	6弱	6強	5強	6強
大台町	6強	7	6強	5強	6強	5弱	6強
伊賀市	6強	6強	6弱	6弱	6弱	6強	6弱
名張市	6弱	6強	6弱	5強	6弱	6弱	5強
伊勢市	7	7	6強	6弱	6弱	5強	6強
鳥羽市	7	7	6強	6弱	6弱	5強	7
志摩市	7	7	7	5強	6弱	5弱	7
玉城町	7	7	6強	5強	6弱	5強	6強
南伊勢町	7	7	7	5強	6弱	5弱	7
大紀町	7	7	6強	5強	6強	5弱	6強
度会町	7	7	6強	5強	6強	5強	6強
尾鷲市	7	7	6強	4	5弱	4	6強
紀北町	7	7	6強	5弱	6弱	5弱	6強
熊野市	7	7	7	4	5弱	4	6強
御浜町	7	7	7	4	5弱	4	6強
紀宝町	7	7	6強	4	4	4	6強

市町名	今回想定							三重県(2005) (東海・東南海・ 南海地震)
	内閣府(2012) (陸側ケース)	南海トラフ (理論上最大)	南海トラフ (過去最大)	養老－桑名－ 四日市断層帯	布引山地東縁 断層帯(東部)	頓宮断層		
		6強	7	6弱	7	6強	5強	
桑名市	6強	7	6弱	7	6強	5強	6弱	
いなべ市	6弱	6強	6弱	7	6弱	6弱	6弱	
木曾岬町	6強	7	6弱	7	6強	5強	6弱	
東員町	6強	6強	6弱	7	6弱	5強	6弱	

過去最大クラスの南海トラフ地震による強震動予測結果

～歴史地震との比較～

想定結果は、歴史史料から推定される1707年宝永地震や1854年安政東海地震での県内各地の震度と概ね整合している。



1707年宝永地震の震度(左)と1854年安政東海地震の震度(右) (「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版)」(地震調査委員会、2013)より引用。)

[1707年宝永地震]

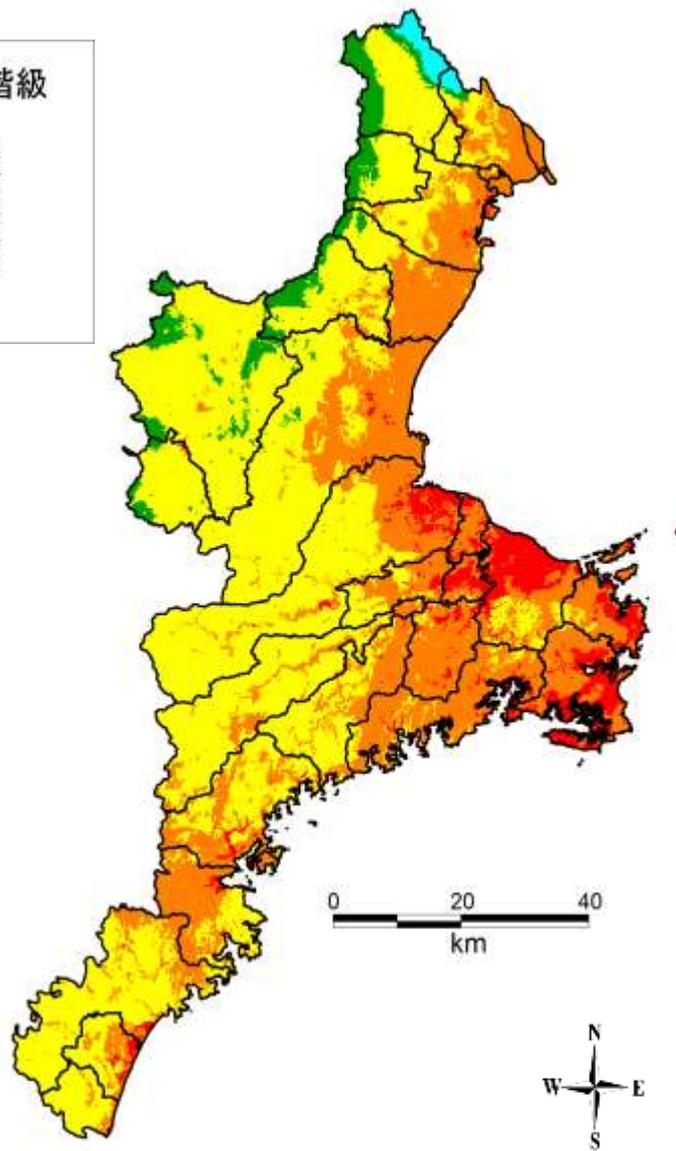
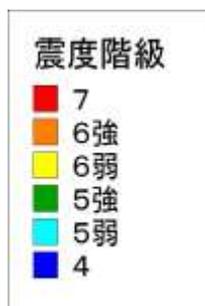
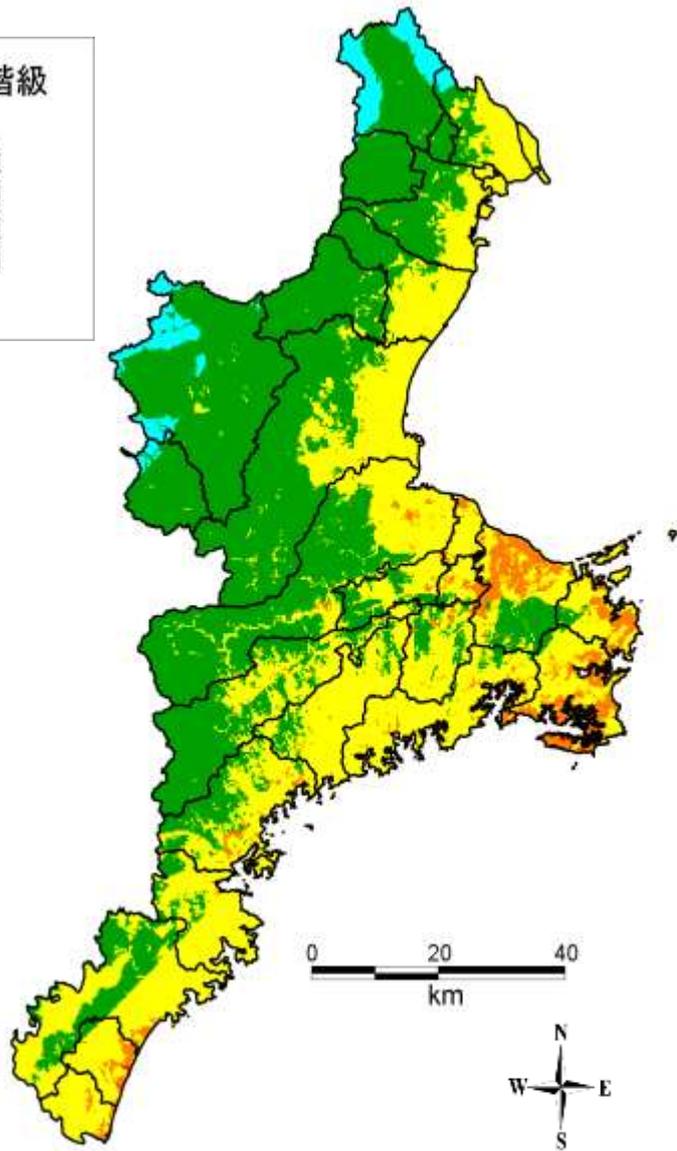
長島：5～6、桑名：6、朝日：5～6、四日市：6～7、
菰野：5、神戸(鈴鹿)：5～6、亀山：5～6、津：6、
久居：5～6、松阪：6、上野：5～6、
山田・河崎・船江：5～6、鳥羽：5～6、国府：5～6、
海山：5～6、尾鷲：6～7

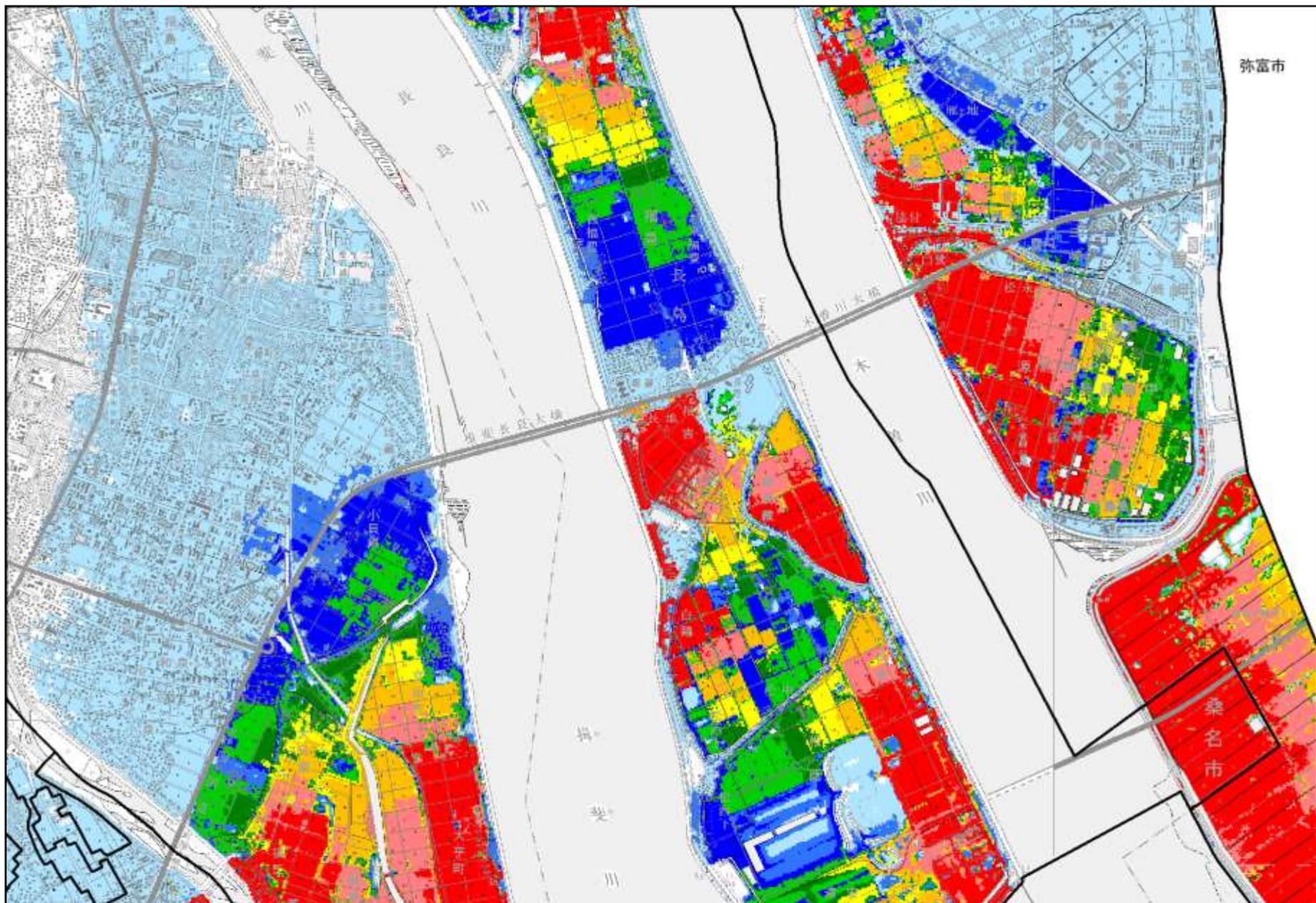
[1854年安政東海地震]

長島：6、桑名：5、四日市：5～6、
神戸(鈴鹿)：4～5、亀山：5、津：5～6、
久居：6、松阪：5～6、相可：4～5、上野：4～5、
山田：6、宇治：4～5、大湊：5～6、鳥羽：5、
国府：6、和具：5～6、越賀：7、古和浦：5
長島：5、尾鷲：5

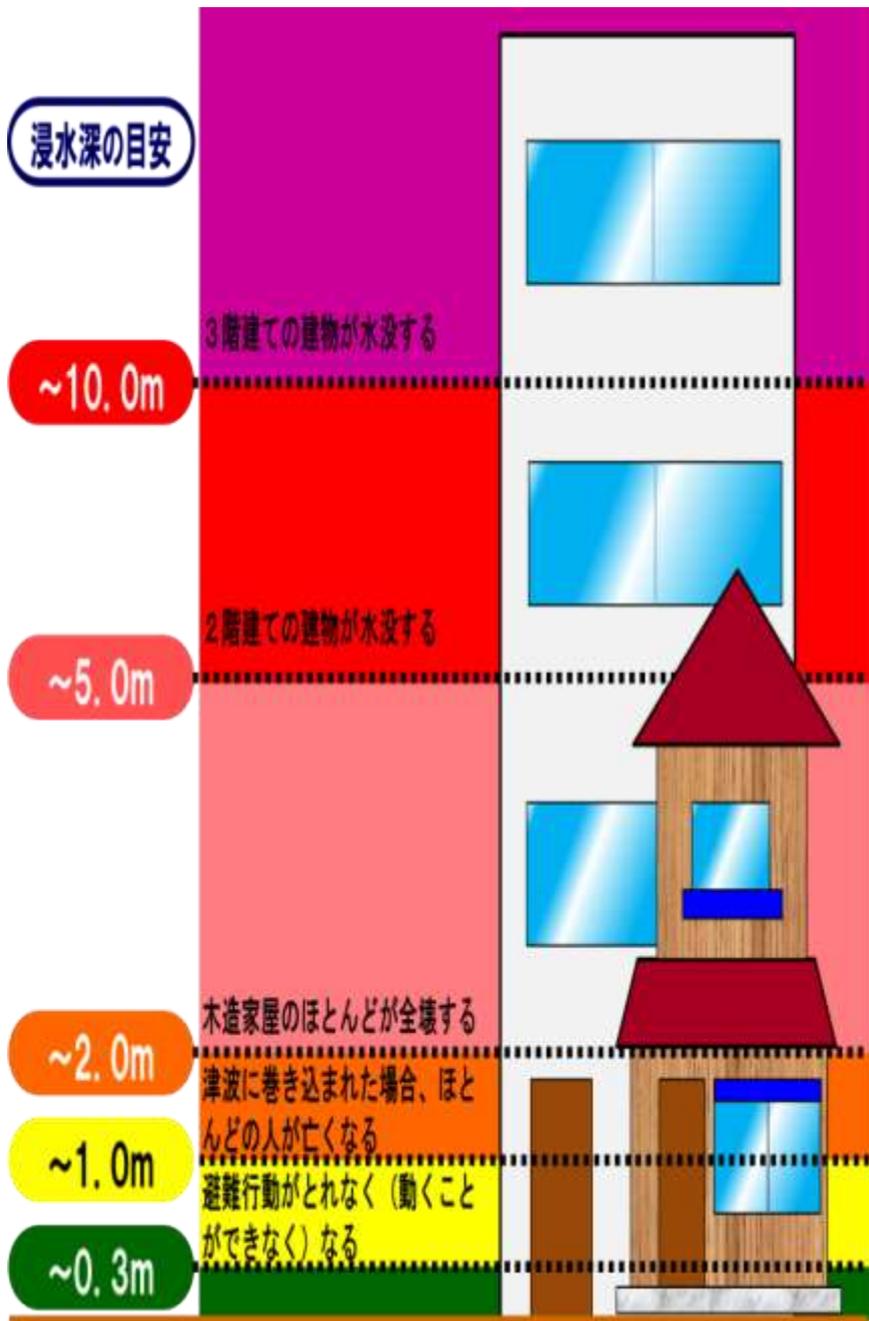
過去最大クラス（左）と理論上最大クラス（右）南海トラフ地震による強震動の比較

過去最大クラスの地震で震度6弱以上が想定されている地域の大半において、理論上最大クラスの地震では、震度6強または7が想定されている。





浸水深の目安



最大浸水深 (m)

■	20	-	50
■	10	-	20
■	5	-	10
■	2	-	5
■	1	-	2
■	0.3	-	1
■	0.01	-	0.3

平成23年度三重県
津波浸水予測範囲



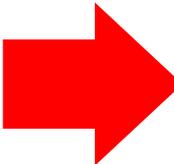
南海トラフ巨大地震が発生したら！

■ スーパー広域災害

神奈川県～宮崎県が震度5以上

■ 三重県への2大物流ルートである大阪・名古屋で大きな被害

■ 県内の沿岸部で大きな被害

- 
- ・行政、消防等の防災関係機関がすぐには機能しない。
 - ・救援が思うように入れない、入ってこない。
 - ・自力・地域力で何とかしなければならない
 - ・そういう状態が長期間続く

阪神・淡路大震災の教訓

倒壊家屋等の下敷き救助者

消防・自衛隊による救助

半数以上は
救出時点で死亡

7,900人

住民による救助

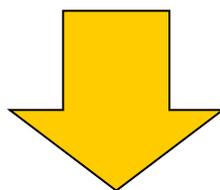
生存率**80%**以上！

27,000人

地域の力の大切さ

組織的に活動する方が効果的！

- 大災害が発生したときに、地域を守るには、個人がバラバラで行動するよりも、組織的に防災活動を行える体制を整えて行動する方が効果的！



自主防災組織が重要

自主防災組織の意義

- 大規模災害に対しては、個人の力に限界がある
- 地域を守るためには組織的な活動で対応することが必要
- 地域には知識や能力を持った人がいる
- 防災対策もコミュニティ活動の延長

自主防災組織とは・・・

- **地域住民が協力・連携して災害から「自分たちのまちは自分たちで守る」ために活動することを目的に結成する組織のこと**
- **法的根拠**
 - **災害対策基本法**
(東海地方に大きな被害をもたらした伊勢湾台風をきっかけとして制定)

自主防災組織の役割（平常時）

- わが街の防災計画をつくる
- 防災知識の普及・啓発
- 防災点検の実施
- 防災点検マップづくり
- 住まいづくり・まちづくりの実践
- 災害時要援護者対策づくり
- 防災訓練 など

自主防災組織の役割（災害時）

- 初期消火
- 救出・救護
- 情報の収集・伝達
- 避難誘導・安否確認
- 避難所の運営
- 給食給水・生活維持
- 安全点検・巡回
- 地域の復旧・復興に向けた取組 など

消防団と自主防災組織

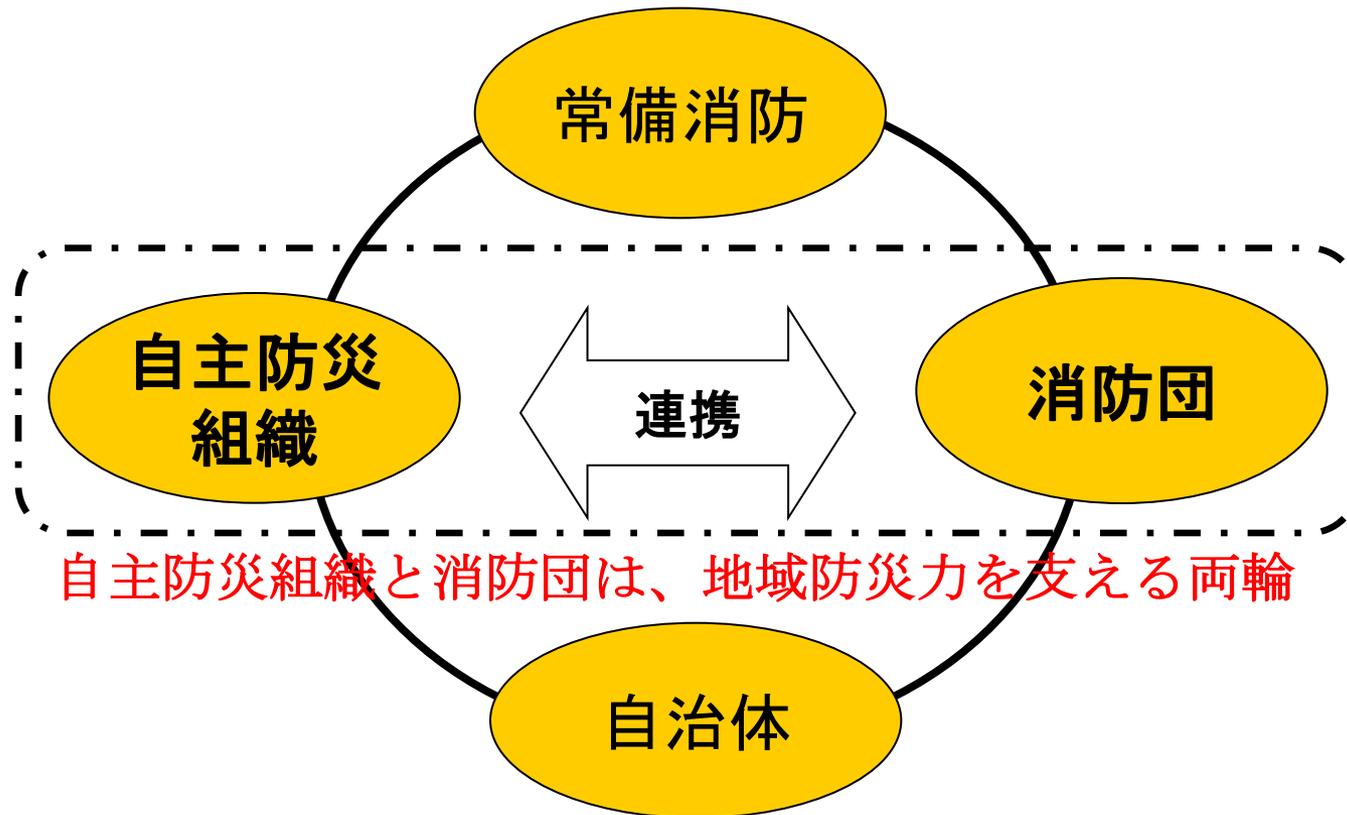
消防団

市町村が消防組織法に基づいて設置する公共機関。
団員は、非常勤の特別職地方公務員。

自主防災組織

住民が防災活動のため自主的につくる任意団体で、メンバーはボランティア。

消防団との連携



災害時：相互に連携した消防・救助活動の展開

平常時：消防団による様々なアドバイス

(防災に対する知識・技術の向上)

消防団と自主防災組織の連携

- 自主防災組織と最も身近な防災機関として日頃から連携を図り、地域の団員やOBの把握に努める
- (具体的内容) 地域防災訓練の実技指導、応急救命講習の実施、防災資機材の点検と操作指導、各種マニュアルや防災マップの作成協力、地域の危険物や消防水利、防災倉庫、避難地等に位置把握

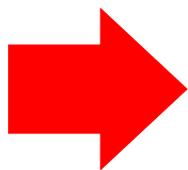
地域の様々な団体との連携

連携先	連携による活動・機能例
自主防災組織	相互の応援協力体制、情報・人的交流
学校	避難所運営・防災教育、人材育成 若い世代の協力、防災知識・技術の支援
社会福祉協議会 ・福祉団体等	災害時要援護者対策
婦人(女性)防火クラブ	家庭における安心・安全活動 日中の防災活動の支援
企業(事業所)	マンパワー(人的協力) 物資、資機材による協力(応援協定)

地域の様々な団体との連携

他団体との連携によるメリット

- 人材が増え、また保有資機材等豊富になる
- 活動の種類やメニューが増え、活発な活動を継続して実施することが可能になる
- 様々な機会を通じた地域住民へのPRが可能となる



地域防災力のさらなる向上

地域の人々や防災関係機関・その他の自主防災組織と連携して行う自主防災活動には次のようなものがあります。



自主防災組織の各訓練内容について

■ 地域の特性に応じた訓練の実施

災害の種類は、地震、津波、暴風、豪雨、洪水、高潮、土石流、地すべり、崖崩れ、密集市街地での延焼火災など様々なものがあります。自分たちの地域の特性を考えて効果的な訓練を実施しましょう。

地域の特性に応じた訓練とは・・・

■ 浸水の恐れのある地域

○津波・高潮を想定した訓練

危険情報や避難勧告を伝達訓練

高台等に避難する訓練

海水浴等に対する避難誘導訓練

■ 急傾斜地に隣接した地域

○土石流、地すべり、崖崩れを想定した訓練

危険情報や避難勧告を伝達訓練

安全な場所等に避難する訓練

地域の特性に応じた訓練とは・・・

■ 密集市街地

○延焼火災、家屋倒壊、避難路閉塞を想定した訓練

初期消火、避難誘導、倒壊家屋からの救出・救護訓練

■ 観光地

○観光施設利用者の避難誘導を想定した訓練
危険情報や避難勧告等をすぐに伝達するための訓練

避難誘導訓練

地域の特性に応じた訓練とは・・・

■ 福祉施設等に隣接した地域

- 保育所、老人福祉施設など福祉施設との協働訓練
危険情報、避難勧告等をすぐに福祉施設等に伝達する訓練
高齢者や障害者等の避難誘導訓練

■ 企業・事業所が混在する地域

- 住民と事業所の協働訓練
昼間の発災を想定した避難誘導訓練
救出救助訓練
※地域と企業・事業所との協働の取り組みが必要です。

地震災害時の行動(1)

■ 災害発生前

- 防災知識の普及
- 防災訓練の実施
- 資機材の整備等

■ 災害発生直後

- 自身と家族の安全確保
- 近隣での助け合い(出火防止、初期消火、、救助等)

地震災害時の行動（2）

■ 災害発生直後

地域で救援活動にあたる人も含めて、大部分の人が被災者であり、生命の危機・生活環境等の破壊に対し、自助と地域住民の共助が中心となる時期

■ 数時間後

- 安否や被害についての情報収集
- 初期消火・救助活動
- 負傷者の手当・搬送
- 避難誘導活動
- 災害時要援護者の避難支援

地震災害発生時の活動（3）

■ 地震発生から数日間

行政や公的機関による緊急対応や地域住民と自主防災組織としては、初動対応となる消火・避難・救出・給水等を実施する時期となる。又、外部から様々な支援活動等が入って来る時期

■ 地震発生から数日間

- 避難所運営
- 自治体及び関係機関の情報伝達
- 避難住民への広報・情報伝達
- 他の団体等への協力要請
- 物資配分・物資需要の把握
- 炊き出し等の給食・給水活動
- 防疫対策・し尿処理
- 避難中の自警(防犯)活動
- 災害時要援護者への配慮

風水害時の活動（1）

■ 災害発生前

○ラジオ・テレビなどの気象情報に注意し、避難準備情報や避難勧告・指示に備えて行動する。又、地域の災害状況（水位、土砂災害の前兆現象）に注意する。

風水害時の活動（1）

- **自主防災組織に期待される活動・役割**
 - ※ **早期の情報伝達・事前行動が必要**
 - ※ **土砂災害の前兆現象などに注意し、異常があれば自主避難するとともに、市町へ通報する。**
 - **住民への避難の呼びかけ**
 - **土嚢積み等、被害を抑える行動**
 - **災害時要援護者の避難支援**

風水害時の活動（２）

■ 災害発生直後

早期に避難を完了し、避難所等での安否確認等を実施する時期である。

又、状況に応じて、水防活動・救出・救護を実施する。

風水害時の活動（3）

- **自主防災組織に期待される役割・活動**
 - ※ **被害を抑えるための行動と避難所運営**
 - **水防活動**
 - **安否や被害についての情報収集**
 - **救出活動**
 - **負傷者の手当・搬送**
 - **避難所運営**



地域を知るために・・・

ワークシヨツプ (簡単にできるもの)

- ・タウンウォッチング
- ・図上訓練 (DIG)

グループ分け……………10人前後を1グループとし、マジックなどで書き込みます。ベンジンなどで消せるし、シートだけをすてればすれば地図が、また、利用できます。

用意するもの…シール、ポストイット、色別のマジック、ハサミなど

意見交換

地図にまとめて、気づいたことはありますか？町歩きで得た、情報のほかに、どのような情報があればよいでしょうか？

地区の、長所、短所を、スピーキングしましょう。

発表

ほかのグループの発表を聞いて、気づいたことはありますか？

“タウンウォッチング”は、一人の専門家が、地区を診断するものではありません。

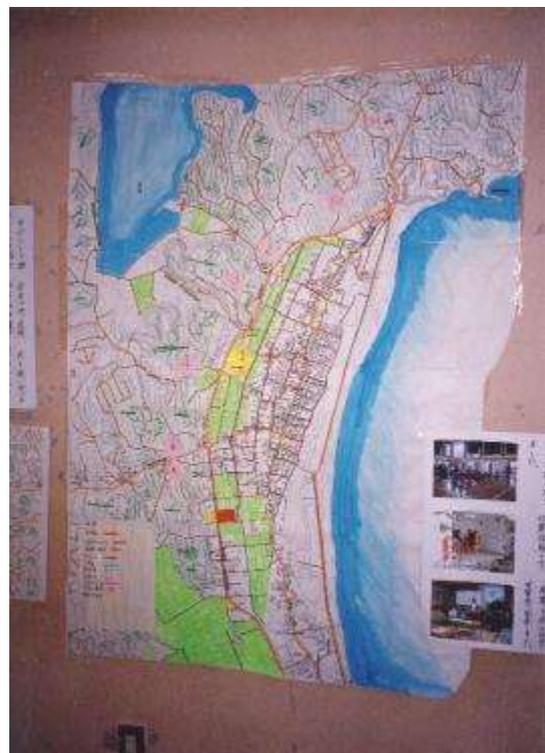
住んでいる人々が、同じ地域を、複数で“ウォッチング”することにより、長所などを洗い出し、問題点を共有化したのち、その短所を一つずつなくしていく、又は少なくしていくための方法です。



地図にまとめましょう

町には色々なあなたに関係のある建物がたくさんあります。どこにどんなものが建っているか知っていますか、また、どんなことに気付きましたか？

いざというときの、あなたの避難するところは、どこでしょう？



避難する、経路までいければ、避難計画は、ほぼ完成です

災害図上訓練(DIG)をしよう！

【DIG】

- DIGは、三重県で、開発されたもので、災害が発生したときどうするかを地図上で、考えるという方法です。
- 海が近くで、津波の危険がある、町内に古い橋がある、老人などと一緒に、無事に避難所まで行くとき、気づいたことが、皆さんの知恵や、意識の向上につながります。



災害時の対応

ではどうしたら・・・

早期に避難が重要です！

■ 土砂災害警戒情報とは・・・

大雨による土砂災害発生危険度が高まった時、市町長が避難勧告等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考になるよう都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。

■ 早期避難が重要です

上記情報等が発表されていなくても普段と異なる状況に気がついたときは、安全な場所に避難してください。

自主防災組織初動時の活動（1）

■ 出火していたら……

消火器や可搬ポンプ・バケツ・ルーなどによる初期消火活動を実施します。

■ 救出救助活動

家屋の倒壊による負傷者が発生することが予測され、地域住民と協力しながら救出にあたります。 (なお、困難をきたす場合、無理はしない)

自主防災組織初動時の活動（2）

■ 救急救護活動

軽傷者の場合は、応急手当を行い、重傷者は市町が設置する救護所や最寄りの医療機関に搬送したり、消防隊・救急隊等の応援を要請してください。

■ 情報の伝達・収集等

災害発生直後は情報が入手しにくい状況ですので、デマに惑わされず、正確な情報を収集し、住民や関係機関に伝えましょう

自主防災組織初動時の活動（3）

■ 避難誘導

避難する際は、非常持ち出し品など最小限の物資・用品だけを持ち出し、軍手やヘルメット、厚底の靴などで動きやすい服装で避難するよう、地域住民に呼びかけましょう。

■ 安否確認

住民の安否を確認し、市町の災害対策本部に連絡しましょう。

自主防災組織の結成状況

(H25年4月1日現在)

	市区町村数	自主防災組織を有する市区町村数	管内世帯数 (A)	自主防災組織がその活動範囲としている地域の世帯数 (B)	自主防災組織活動カバー率 (B/A) (%)
全国	1,742	1,647	55,577,563	43,312,946	77.9
三重県	29	29	763,846	684,290	89.6

出典：平成26年度版消防白書

※三重県の自主防災組織活動カバー率は全国で10番目

1位 愛知県 95.0% 2位 山梨県 93.9% 3位 兵庫県 93.8%
4位 静岡県 92.8% 5位 岐阜県 92.5%

自主防災組織の現状と課題

- **地域や組織により活動状況に差がある**
- **住民の行政への依存度が高い**
- **訓練のマンネリ化等、自主防災組織活動が停滞している**
- **活動が真に自主的・主体的なものになっていない恐れがある**
- **自主防災組織の役員の短期交替と高齢化等により、新たなリーダーが育ちにくい**
- **マンションやアパートの住民、短期赴任者等を多く抱える地域では、隣保精神、連帯感が希薄である**
- **活動が役員と一部の住民にとどまっている**

みえの防災大賞受賞団体に学ぶ

■ 平成18年度大賞受賞

四日市市港地区自主防災組織連絡協議会

■ 平成19年度大賞受賞

特定非営利法人災害ボランティアネットワーク鈴鹿

■ 平成20年度大賞受賞

伊賀市柘植地域まちづくり協議会 自主防災実行委員会

■ 平成21年度大賞受賞

子育て応援！！0，1，2，3サークル（鳥羽市）

みえの防災大賞受賞団体に学ぶ

- 平成22年度防災大賞受賞
朝見まちづくり協議会（松阪市）
- 平成23年度防災大賞受賞
内部地区自主防災協議会（四日市市）
- 平成24年度防災大賞受賞
かめやま防災ネットワーク
- 平成25年度防災大賞受賞
南が丘自主防災協議会（津市）

四日市市港地区 自主防災組織連絡協議会

【団体の紹介】

四日市市のコンビナート地帯に隣接した港地区は「自分たちの町は自分たちで守ろう」をスローガンに、13の自治会毎に自主防災組織が活動していますが、大災害発生時には各自主防災組織が連携し協力することが必要との考えから、平成8年10月に自主防災組織連絡協議会を結成しました。以来、地区を挙げて防災活動に取り組んでいます。

自分たちの町は 自分たちで守ろう！

【概要】

この団体では、災害時の被害状況を想定した自主防災体制づくりや、個人・家族の行動、避難所開設、避難所運営などの具体的なかつ詳細なマニュアルを作成し、各戸に配付しています。また、地区内の2か所に高度な資機材を持つ「市民防災隊」を配置しています。

なお、災害時要援護者の方々には、福祉と防災を一体化した「港地区支え合いカード」を作成し、カードを基に家庭訪問を実施するなど、支援体制も充実しています。さらに、地区内に居住する防災上の技能者を把握し、有事の際に協力を依頼する体制の整備を図っています。

注目すべきは、企業との防災連携の推進です。日頃から地元の企業と勉強会や合同訓練等を実施するなど、地域の防災力を向上させるための取組を積極的に実践しています。

このように、多様な主体の協働による防災活動の先駆的取組も展開され、今後も、他の地域への波及や自助・共助の活動のモデルとして、さらなる発展が期待できる団体です。



防災マニュアルと
災害時要援護者台帳「港地区支え合いカード」

港地区 支え合いカード	
氏名	住所
山田 太郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 次郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 三郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 四郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 五郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 六郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 七郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 八郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 九郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 十郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 十一郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 十二郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 十三郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 十四郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 十五郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 十六郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 十七郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 十八郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 十九郎	〒438-0001 四日市市港地区
山田 二十郎	〒438-0001 四日市市港地区



津波に備え、防潮扉を閉める訓練



リヤカーを使った
災害時要援護者の避難訓練

災害時要援護者をリヤカーに乗せ、避難所まで避難する訓練を実施しました。

避難所運営訓練

防災マニュアルに掲載の避難所運営マニュアルに基づいて、体育館で避難所開設訓練を行いました。



企業との連携を図った訓練

コンビナートの自衛消防隊と合同で防災訓練を行っています。

特定非営利活動法人

災害ボランティアネットワーク鈴鹿

鈴鹿市

みえの防災大賞

防災は子供が主役 「やっぱり子どもってすごい！」

【団体の紹介】

災害ボランティアネットワーク鈴鹿は、平成7年の阪神淡路大震災を契機に設立されたNPO法人の防災ボランティア団体です。この団体の被災地支援はめざましく、阪神淡路大震災、福井県のナホトカ号重油災害、東海豪雨をはじめ、平成16年の台風21号による旧海山町（現紀北町）や旧宮川村（現大台町）への支援があげられます。また、将来を見据えた子供たちを対象とした防災教育が充実しています。

【活動の概要】

現場主義を貫き、各地で地震や水害等の大規模災害が発生したときには、被災地へ赴き、被災者への支援活動やボランティアセンターの運営支援活動を全国的に展開しています。また、平常時には市民を対象とした地域防災力向上のための啓発活動も積極的に行っています。

特に注目したいのは、「次世代へ継ぐ防災教育」をテーマに、地域の大学等と連携して「防災子供サミット」を開催していることで、その活動は本年度で8回目を数えました。

子供たちと被災地を訪問し、地元の人達との交流を行うなど、将来の防災活動の中心となる子供たちに対する意識付けの活動が評価されています。「継続は力なり」との言葉どおり、既に、ここで学んだ子供たちが成長して、小さな子供たちをリードする姿も見られるようになりました。

なお、当団体は昨年度に「みえの防災奨励賞」を受賞しています。

被災地支援（新潟県中越沖地震）



「元気のたね」紀州南両橋を模範めにする作業被災地の皆さんに喜ばれました。



今から、ぜんざいを作ります。

防災子供サミット

防災子供サミットは、地元の大学や鈴鹿市の社会福祉協議会、行政などの協力を得て、子供たちを対象に、三重県消防学校で行っています。



班別発表



ロープ渡り訓練



トランシーバーを使った無線体験



ストローを使った耐震実験

みえの防災大賞

伊賀市柘植地域まちづくり協議会 自主防災実行委員会

伊賀市

「見守りネットワークで、安心・安全のまちに」

【団体の紹介】

柘植地域の人口は約4,000人で、1,400世帯が暮らしています。
柘植地域まちづくり協議会では、平成17年度に住民の安心・安全を守るための住民による見守りネットワークづくり事業を開始し、平成18年度には災害時要援護者支援ネットワークを構築するための基本となる「災害時安否確認マニュアル」を策定しました。

【活動の概要】

まちづくり協議会では、平成19年度に自主防災組織の代表や民生委員・児童委員、健康福祉関係団体等の代表からなる自主防災実行委員会を発足し、災害時要援護者支援を中心とした実践的で活発な防災活動を行っています。

ここでは、消防団や社会福祉協議会との連携により、住民の安否確認等に重点を置いた柘植地域合同防災訓練を実施するとともに、防災無線による交信訓練や防災用資機材の点検整備等の取組を行っています。

さらに、大規模災害時には公的な支援は望めないとの認識から「安否確認・避難支援登録シート」や「福祉（支え合い）マップ」の作成や更新など、自分たちの地域は自分たちで守るという「共助」の活動を実践しています。



【福祉（支え合い）マップの作成】

自分たちの住んでいる町を歩き、気付いたことを地図に書き込みます。



【災害時要援護者支え合いマップ作成マニュアル】



【災害時要援護者支え合いマップ】



【研修会の開催】



【柘植地域合同防災訓練】

2007年度 第3回、朝見地区ふれあい防災訓練

《役目カードを使って役割分担》

(避難場本部役員用)



1.防災訓練の役目を明確にする為、カードを作り使用する。

2.例・・給食給水班は何をするか？

- ・代表1名が本部炊き出し(豚汁)作りに、自転車もしくはバイクで参加する。

- ・8:00 本部会場に到着するよう町をスタートする。

- ・メモ書きには、エプロン、タオルを持参。8:00までに朝見小学校に集合する。

など記されている。

3.役割を自覚しながら、訓練内容を明確にして、自覚ある訓練にした。

(各町自主防災隊用)



実際に訓練で使ったカード
説明会で聞いた役目を、自
分に分かるようにメモ書
をしている。

粘り強く防災活動を継続し、
“地域の絆”へつなげよう!!

団体の紹介

四日市市内部地区は、四日市市の南端に位置し、世帯数約7,000、人口約18,000人という大きな地区で、農村地域・大規模新興住宅地域・大企業社宅地域が混在しています。

内部地区自主防災協議会は、20町の自治会、自主防災隊、福祉協議会、警察、消防団、学校、長寿会、婦人会、子ども育成会等によって組織されています。

なお、本団体は、平成21年度に「みえの防災奨励賞」を受賞しています。

活動の概要

四日市市内部地区自主防災協議会では、これまで、地区内20町の足並みが揃わず、取組にも相当な差がみられました。そこで、訓練を年2回に分け、1回目は各町に見合った訓練の実施を促すとともに、各町が実施した訓練概要を全町で情報共有したところ、競争意識が芽生え、互いの訓練を視察するなど、防災活動の域を超えて、世代や環境の違いを超えた地域活動に良い影響を及ぼしています。2回目は、地区全体での総合防災訓練を実施し、その後は参加者のアンケートを基に大規模な反省会を行い、そこで出た意見等を翌年の訓練に反映させており、これまで、要約筆記、ボランティア要請訓練、食物アレルギー対策訓練、中学生の参加を訓練のテーマに取り入れています。

このような様々な工夫により、地区の防災活動が絶えず進化しています。

今後の課題

防災活動は、“災害時への備え”が大きな目的ですが、活動を通じて“地域の絆を深める”ことにも大きく役立つことを体験しています。本団体は、訓練と絆を両輪に防災活動を継続していくことを課題としています。



【消火訓練】



【消火訓練】
自給の放水ポンプをリヤカーで搬送しました。



【避難所運営訓練】
ホワイトボードに要約筆記し、避難所がいかに機能するようにしています。



【ボランティア要請訓練】



【配給配布訓練】



【応急処置訓練】



【災害時要援護者搬送訓練】



【訓練材訓練】
中学生はいざという時の減災能力です。



かめやま防災ネットワーク

「かめやま防災ネットワーク」は、亀山市在住のみえ防災コーディネーターにより、平成19年に組織されたボランティア団体です。

地域の防災力向上のため、子ども防災教育の活動、地域への防災出前講座の活動、防災資機材の点検・指導を行うなど、学校・家庭・地域と連携した防災活動を行っています。

今年度は、「継続と更なる展開」をモットーに、井田川小学校での「子ども防災土育クラブ」活動を継続（3年間）するとともに、他の3小学校へ活動を拡大しました。また、新たに女性のための防災講話や、初めての試みとして地域の防災マップを使ったジグソーパズルを行うなど更なる展開を図っています。

今後も、中学校への防災教育の推進や女性のための防災教室など活躍が期待されます。

なお、本団体は、平成22年度には、みえの防災奨励賞を受賞しています。

～ 大切な人を守るために ～



井田川小で行われた防災すごろく



亀山南小で行われた下校時の避難訓練



タウンウォッチング



亀山防災塾「HUG勉強会」



井田川地区で行われた地域の防災マップを使ったジグソーパズル



《今後の活動について》

今後の活動としては、地元小学校への防災教育の継続と他の小学校への更なる展開を進めて行くとともに、中学校への防災教育や女性のための防災教室などを実施したいと考えています。また、地域への防災啓発活動として、地域の防災マップを使ったジグソーパズルや避難所単位でのHUG（避難所運営ゲーム）、防災講座などを継続して実施する予定です。

今後も「大切な人を守るために」を合言葉に楽しい防災活動を行っていきたく思っています。

平成25年度みえの防災大賞

大賞

南が丘地区自主防災協議会

「南が丘地区自主防災協議会」は、南が丘地区17自治会と地域の学校が一体となって活動し、地域住民の安全と災害に強い安全安心な街づくりを目指しています。

地域住民に自分の地域を知ってもらうために、地震・津波・液状化についての正しい知識の啓発や、大規模災害発生後の避難所生活へのスムーズな移行のため、地区内施設の有効利用や、他地区住民の受け入れ・帰宅困難者の対応について協議の実施、また海岸地域との合同懇談会を開催しています。

また小・中学校の先生・児童あるいは親子で避難所運営訓練を行うなど、次世代層への防災教育、女性や中学生を対象とした防災啓発に力をいれて取り組んでいます。

防災・減災活動の継続ということについては、ほとんどの自治会長・役員が毎年交代してしまうことの多い中、数年にわたって防災活動を行っている役員が中心となり、勉強会を行うなど、訓練を繰り返すことで経験者を地域に増やし、いざという時に避難所で核となる人材を増やす取組も実施しています。

地域防災の活性化に貢献しており、近隣地区や同じ高台地区との連携強化も図られており、他団体や他地域への裾がりが大いに期待されます。

なお、本団体は、平成21年度「みえの防災奨励賞」を受賞しています。



避難所と集会所間の無線通信訓練

女性を中心としたグループとの防災研修会



地震・津波について勉強



「猫の砂」を使った非常用トイレの体験

《今後の活動について》

今後の活動としては、自宅が地震・津波の被害が少ないと想定される住民へは、自宅そのものを避難所として使用できる「安全・安心な自宅避難の勧め」キャンペーンや、自宅避難者に対する支援の具体的な検討、海岸地区の方との合同避難所運営訓練、火災に対する取り組みの検討を行っていく予定です。



小・中学校関係者を巻き込んだ避難所運営訓練



ストローハウスと液状化実験



南が丘中学校 全校生徒・先生を対象とした防災講演会



各自主防災会会長を中心とした運営委員への指導

地域防災力の強化に向けて

- 自主防災組織と防災関係団体等との連絡・交流促進

両者を結ぶ窓口の充実等、事前登録制、

- 地域防災活動の指導者の活用

消防団OBや看護師OGなどの活用

- 自主防災組織の連合化（ネットワーク化）

地区単位での連絡協議会などの連合体の推進

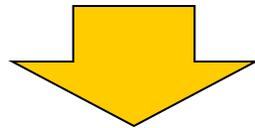
- 協働型モデル防災訓練の実施

望ましい防災リーダー像

- 防災のみならず、安心・安全まちづくり活動に関心が高く、かつ防災対策の経験も豊富である
- 行動力がある
- コミュニケーション能力が高い
- 地域において人望が厚い
- 自己中心的でなく、地域住民全体のために考えられる
- 多数意見をとりとまとめ、また、少数意見を尊重できる

大切な仲間づくり

- 防災活動の内容は多岐にわたり、リーダー1人でこなしていくのは不可能。
- リーダーを助け、支える人達が多いほど、様々な防災活動を展開することが可能になる。また、効果的な防災対策のアイデアも出やすくなる。



地域の皆さんに防災に対する関心を高めてもらうことが大切！

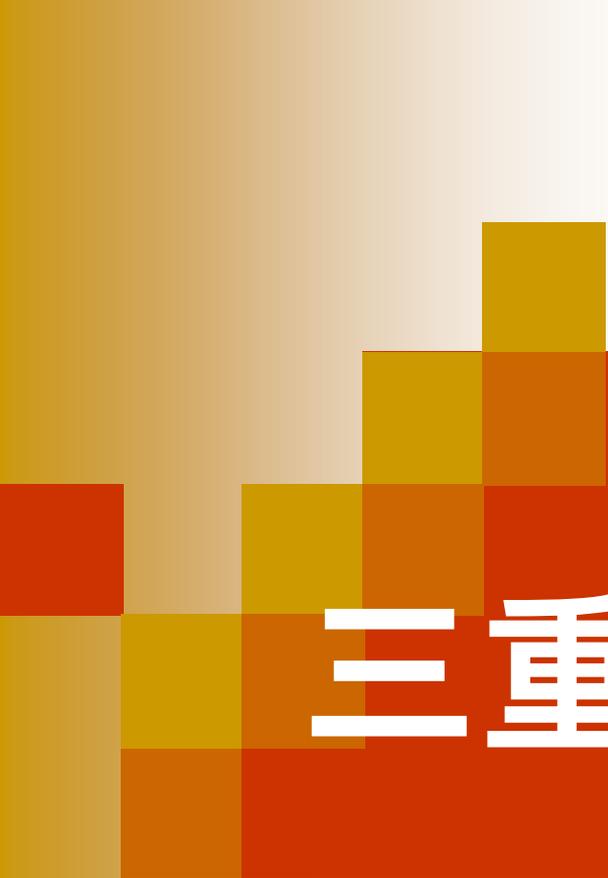
地域に潜在しているさまざまな能力を持つ仲間を増やす！

地域づくりの重要性

- 地域の防災力向上のためには、地域づくりの視点が重要
- 何が「住民力」を高めるのか
 - ①地域の誇りを大事にする
住民が共通に大事なものを作り、守る。
例えば、石碑、祭、様々な文化等
 - ②日常からの近所つきあい
子どもや高齢者にやさしい町。近所で声をかけ合う。
 - ③地域を支えるしくみづくり
地域が自律できるしくみ、住民と自治体の協働のしくみ

さらに地域コミュニティを活性化させる ための条件

- 日常的な交流（地縁：町内会、NPO、趣味のクラブなどの集団との結びつき
- コミュニティ組織の存在（自主防災組織、防災コミュニティ、まちづくり協議会、福祉協議会など）
- 情報共有・連携のしくみの構築と活用
- 地理的に近く居住し、適当な地域の大きさ
- 地域リーダーの存在と人材育成



三重県の地震対策

- 平成24年度から25年度にかけて、三重県独自の地震被害想定調査を行い、**市町単位の具体的な被害想定結果**を平成26年3月にとりまとめました。
- この被害想定や東日本大震災で得た教訓や新たな知見等を踏まえ、**「三重県地域防災計画(地震・津波対策編)」**を抜本的に見直すとともに、これからの三重県の総合的な地震・津波対策の道筋を示す**「新地震・津波対策行動計画」**を策定し、公表しました。
- 今後は、これら計画を着実に推進し、いつか必ずこの地を襲う、南海トラフ地震への**防災・減災対策**を進めていきます。

東日本大震災後の 地震・津波対策の見直しの経緯

平成23年度

平成24年度

平成25年度

平成26年度から29年度

緊急地震対策行動計画

新地震対策行動計画(仮称)
策定作業

継続・
新規

新地震・津波対策行動計画
計画期間:平成25年度～平成29年度

反映

反映

三重県独自の
津波浸水予測調査

三重県内の被害想定調査

三重県の今後の主な取組

■ 地震・津波対策

- ・三重県新地震・津波対策行動計画の着実な推進
→ 海抜ゼロメートル対策、復興指針の策定、業務継続計画の策定など
- ・「津波避難に関する三重県モデル」及び「避難所運営マニュアル策定指針」の水平展開

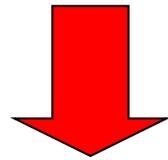
■ 風水害対策

- ・三重県地域防災計画（風水害等対策編）の見直し
近年、国内に甚大な被害をもたらしている、台風、集中豪雨、竜巻、大雪等にかかる災害対策を新たな観点から記載 また、原子力災害対策についても記載
- ・三重県新風水害対策行動計画（仮称）の策定
地域防災計画の見直しに合わせて策定。
近年、我が国に大きな被害をもたらした風水害における災害対策上の課題に着目して行動項目を設定

過去の教訓から . . .

- **地震対策は、耐震補強しかありません。**
「耐震診断・耐震補強・家具等の固定」
- **津波対策は、逃げるしかありません。**
「津波被害の可能性のある土地に住んでしまったら、津波からは逃げるが勝ち」
- **風水害対策は、情報収集しかありません。**
「早い情報収集で早い対応と避難」
- **災害に対する危機感を普段から持つ！**
「のど元過ぎても熱さを忘れない！」
「対岸の火事と思わない！」

**「防災」を「忘災」にしない
取り組みを継続することが大切。**



災害は、**「私たちが備えを」**
忘れた頃にやってくる。

HP（防災みえ. jp）への掲載

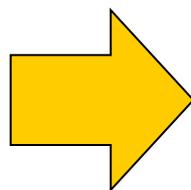
防災みえ. jp



もしものときに



各種報告書



- みえ自主防だより
- 自主防災リーダーハンドブック
- 避難所運営マニュアル策定指針
- 災害時要援護者避難対策マニュアル
- 三重県内活断層図
- 津波の浸水予測
- 三重県地域防災計画被害想定調査結果

など